

経済・経営

水野正一／飯田経夫／藤瀬浩司編

国際経済摩擦研究叢書 1

文化と経済発展

本書は、経済発展とその国の国民性や宗教などとの関わりを解明し、経済摩擦を新しい視点から掘り下げる。〔目次〕文化と経済／貿易摩擦と文化的要因／儒教文化圏の秩序と経済／韓国近代化の課題と阻害要因／南西アジアからみた「文化と経済発展」／文化と経済発展

〔品切〕四六判・250頁・1,500円

〔1983〕978-4-930689-04-7

金 日坤著

国際経済摩擦研究叢書 2

儒教文化圏の秩序と経済

台湾、シンガポールなどとともに儒教文化圏に属し著しい経済発展を遂げた日本と韓国。本書はこの両国の特徴を歴史的に対比・分析して、文化と経済の關係に斬新な視角から迫る。「韓国経済と文化を把握するための最良の本」と山本七平氏激賞の日韓比較文化論である。

〔品切〕四六判・240頁・2,200円

〔1984〕978-4-930689-15-3

小川英次／木下宗七／岸田民樹編

国際経済摩擦研究叢書 3

日本企業の国際化

—資本・経営・技術移転—

現代は国際化の時代であると言われるように、人物、金のすべてが国境を越えて活動している。本書は、経済摩擦、産業の空洞化など、わが国企業活動の国際化がはらむ問題点を、資本・経営・技術移転に絞って鋭く究明する。1984年の第3回国際経済摩擦シンポジウムの報告。

〔品切〕四六判・204頁・2,000円

〔1987〕978-4-930689-61-0

任 文俠著

国際経済摩擦研究叢書 4

中国の経済改革と企業管理

1978年以降の中国の現代化に伴う経済改革の進行は、企業管理においても大きな変化を引き起こしている。本書は、吉林大学日本研究所教授の著者が、この経済改革の過程を企業形態、経営形態、成果配分制度等を中心に最新の資料を使って詳述、日本の企業経営との比較にも触れる。

〔品切〕四六判・284頁・2,500円

〔1990〕978-4-8158-0128-1

小川英次／藤瀬浩司／真継隆／Th. ダムス編

国際貿易と経済摩擦

—日本とドイツの比較研究—

第I部で、国際貿易を歴史的に考察し、日独両国の貿易構造の展開過程とその特徴を解明。第II部では、国際貿易を理論的に考察し、日独両国の交易条件や生産構造、為替政策や金融政策の効果を比較。第III部では、両国の緊急課題である経済摩擦とそれへの対応策を論究。

A5判・184頁・3,200円

〔1984〕978-4-930689-16-0

水野正一／真継隆／Th. ダムス編

ME化の現状と雇用問題

—日本と西ドイツの比較研究—

本書は、ME機器を中心とする先端技術の導入・普及の現状と、それに伴う生産現場での労務管理や雇用問題、労働市場における失業、職業教育、労働時間短縮などの諸問題をわが国といくつかの点で共通性をもつ西ドイツと比較しながら分析する。

〔品切〕A5判・270頁・3,200円

〔1986〕978-4-930689-45-0

水野正一／Th. ダムス編

経済・経営の構造変化と対応策

—日本と西ドイツの比較研究—

A5判・216頁・3,200円

[1987] 978-4-930689-60-3

真継隆／Th. ダムス編

国際経済における日独の役割

—日本と西ドイツの比較研究—

A5判・214頁・3,200円

[1988] 978-4-930689-88-7

真継隆／Th. ダムス編

保護主義か自由貿易か

—日本と西ドイツの比較研究—

[品切] A5判・266頁・3,200円

日本と西ドイツにおける近時の産業構造の激変とそれへの対応策を、失業問題、金融財政、農業問題、エネルギー、経営等に焦点を当てて示唆する日独共同研究の成果。第1部「経済構造の変化と対応策」／第2部「経営構造の変化と対応策」。

世界経済においてアメリカの経済力が相対的に低下している現在、日本、西ドイツがはたすべき役割を、第1部「経済の国際化と課題」／第2部「経営の国際化と課題」、に分けて多角的に究明する。名古屋大学・フライブルク大学共同研究会の成果である。

保護主義か自由貿易か？ これは世界経済が直面する最大の課題であり、経済理論の立場から、政策立案の立場から、多くの人々が解決の糸口を模索している。本書は、経済と経営、理論と政策の観点から、日本と西ドイツの両国経済がいま何をなすべきかを多面的に考察する。

[1989] 978-4-8158-0107-6

木下宗七編

名古屋大学経済構造研究センター叢書 1

環太平洋経済の発展と構造調整

A5判・318頁・4,000円

近年の国際経済環境の大きな変化のなかで、日本、アメリカ、東アジア地域を中心とする環太平洋経済は世界経済の新しい成長軸として注目を集めている。本書は、「各国経済の相互依存」に焦点を合わせ、環太平洋経済の成長と変動のメカニズムをモデル分析を使って明らかにする。

[1990] 978-4-8158-0134-2

小川英次／牧戸孝郎編

名古屋大学経済構造研究センター叢書 2

アジアの日系企業と技術移転

A5判・166頁・2,200円

本書は、企業活動のグローバル化に伴いアジア NIES および ASEAN 諸国へ進出した日系企業の直接投資の実態を、資本、管理、組織、技術といった多面的な角度から明らかにし、日本の経営と称される種々の経営管理手法・制度並びに生産技術移転の動向と可能性について検討する。

[1990] 978-4-8158-0141-0

牧戸孝郎編著

名古屋大学経済構造研究センター叢書 3

岐路に立つ韓国企業経営

—新たな国際競争力の強化を求めて—

[品切] A5判・322頁・3,800円

韓国経済の高度成長を支えてきた輸出指向型工業化戦略は、韓国経済をとりまく内外の環境変化に直面して、今重大な転機に立たされている。本書は、この現状を踏まえて、国際競争力の一層の強化を求めて模索する韓国企業経営の現状・実体・今後の課題を明らかにする日韓共同研究の成果。

[1994] 978-4-8158-0216-5

Muhammad Rowshon Kamal 著

Problems of Small-Scale and Cottage Industries in Bangladesh

菊判・200頁・4,500円

西側の援助による発展途上国の近代的工業化政策は必ずしも成功していない。本書は、綿密な現状分析からバングラデシュの経済開発の失敗の理由を明らかにし、同国の経済開発の適切なモデルとして日本やインドの small-scale and cottage industries の開発を提唱する。

[1985] 978-4-930689-28-3

長峯晴夫著

第三世界の地域開発

—その思想と方法—

〔品切〕A5判・300頁・3,600円

本書は、国連地域開発センターで著者が携わってきた第三世界諸国の地域開発推進のための調査研究と研修に関する体験に基づき、第三世界諸国の地域開発をめぐる基本的な問題点、その解決のためになされてきたさまざまな努力の成果と未解決の課題を明らかにし、今後を展望する。

〔1985〕978-4-930689-36-8

西田 稔著

日本の技術進歩と産業組織

—習熟効果による寡占市場の分析—

A5判・270頁・3,500円

本書は、戦後日本の技術進歩の中心要因＝習熟効果という仮説に基づき、習熟効果が企業間競争を介して産業組織に与えた影響を、理論的・実証的に考察する。生態的なベイン産業組織論の枠組みを拡充し、ダイナミックな日本の産業発展現象を解き明かす動的寡占理論構築の試み。

〔1987〕978-4-930689-55-9

藤瀬浩司／吉岡昭彦編

国際金本位制と中央銀行政策

〔品切〕A5判・470頁・5,000円

本書は、国際金本位制の古典的時期の各国の中央銀行政策に焦点をあてて、各国が直面した再生産＝信用上の諸問題を把握するとともに、この段階の世界市場と国際金融市場の構造を明らかにして、第一次世界大戦の破局に至る崩壊要因を析出する。資本主義世界体制を解明する共同研究。

〔1987〕978-4-930689-56-6

I. ウォーラーステイン著 藤瀬浩司／麻沼賢彦／金井雄一訳

資本主義世界経済Ⅰ

—中核と周辺の不平等—

〔品切〕A5判・250頁・2,800円

『近代世界システム』により「世界システム論」という新視角から資本主義史を再考、現代の社会科学に圧倒的影響を与え続けている著者の第一論文集。発展段階論的思考からのパラダイム転換をもたらし、現代世界が直面する危機を歴史の深みから照射する。

〔1987〕978-4-930689-62-7

I. ウォーラーステイン著 日南田静真監訳

資本主義世界経済Ⅱ

—階級・エスニシティの不平等、国際政治—

A5判・220頁・2,800円

人種紛争、階級間の争い、中心と周辺の対立等、現代が直面する新たな世界危機を資本主義世界システムの歴史と構造の深みから透視して、社会科学に新地平を拓く。「世界システム論」により現代の社会科学に圧倒的影響を与え続ける著者の第一論文集邦訳完結。

〔1987〕978-4-930689-71-9

松尾秀雄著

所有と経営の経済理論

〔品切〕A5判・256頁・2,800円

現代の巨大株式会社を特徴づけるいわゆる所有と経営の分離現象を、経済原論のなかにどう位置づけるのか。従来の諸学説の再検討の上で立て、流通主体と経営主体というモメントを取り入れて、新たな資本家概念の構築を試みる。

〔1987〕978-4-930689-78-8

堺 憲一著

近代イタリア農業の史的展開

〔品切〕A5判・360頁・5,500円

イタリア社会の近代化を深部で規定した19世紀から第二次世界大戦後に至る農業のあり方を、資本主義史や政治権力との関係で、諸外国との比較もとり入れて実証的に考察。一級の史料と諸外国の研究を消化して書かれた我が国で初めての本格的イタリア経済史研究。

〔1988〕978-4-930689-83-2

水野正一著

財政再建と税制改革

A5判・300頁・3,500円

昭和50年度以降続いているわが国の異常な赤字財政はこのまま放置すれば国民経済の安定的成長にとって最大の障害となりつつある。国債残高150兆円が象徴するこの財政危機をどう克服するのか。日本財政の徹底解剖により、増税なき財政再建の不可能を明快率直に訴える。

〔1988〕978-4-930689-85-6

水野正一編

赤字財政の経済学

〔品切〕A5判・280頁・2,800円

昭和50年度以降日本が抱える膨大な赤字財政は、放置すれば国民経済の安定的成長にとって最大の障害である。本書は、今日の先進諸国が陥っている赤字財政問題を、状況と要因、経済的・財政的影響、政策論的吟味を柱に、経済理論的視野から考察し、赤字財政脱却の道を提示する。

〔1988〕978-4-930689-99-3

八木紀一郎著

オーストリア経済思想史研究

—中—^{ハブスブルグ} 欧帝国と経済学者—

〔RA叢書〕A5判・300頁・5,400円

メンガー、バヴェルク、ヴィーザー、シュンペーター等オーストリア学派の成立を担った経済学者の思想と学説を中欧帝国の社会経済史と精神史のコンテクストから解説する。長らくケインズ革命に光を奪われながら近年復活著しいオーストリアンのプリリアントな研究である。

〔2022 (1988)〕978-4-8158-1074-0

齊藤隆夫編著

企業会計論

A5判・240頁・2,500円

本書は、企業会計における測定原則を中心とした会計的測定構造とその論理的基盤を体系的に究明する。すなわち会計公準と会計諸原則との関連、測定諸原則相互間の関連の検討を踏まえて、企業会計における主要な測定諸原則の特徴とその意義の解明が意図されている。

〔1988〕978-4-930689-94-8

馬場正雄著

日本経済観測と分析

A5判・390頁・3,200円

景気循環論や産業組織論の分野でわが国の実証的経済学の確立に貢献すると同時にマクロ計量経済モデルによって経済政策策定に活躍した著者の遺稿集成。明快な論理と平明な文章は著者がわが国の優れたエコノミストであることを証す。

〔1988〕978-4-8158-0102-1

奥村隆平著

変動為替相場制の理論〔改訂版〕

〔品切〕A5判・180頁・2,800円

変動相場制のもとでは、為替相場はどのような要因によって決定されるのか、マクロ経済政策の効果はいかなるものか、また各国の経済変動はどのようなメカニズムによって他国に伝播するのか、国際金融論の最も重要な諸問題を平易に解説しつつ、読者をこの理論の最先端へいざなう。

〔1989〕978-4-8158-0109-0

金井雄一著

イングランド銀行金融政策の形成

〔RA叢書〕A5判・266頁・5,400円

ナポレオン戦争後の信用制度改革期から古典的な金本位制が終結する第一次大戦までのイングランド銀行金融政策の形成・展開過程を、イギリス資本主義の確立・発展との関係で実証的に解明する。わが国で初めての本格的なイングランド銀行史研究である。

〔2022 (1989)〕978-4-8158-1075-7

根井雅弘著

マーシャルからケインズへ

—経済学における権威と反逆—

〔品切〕四六判・220頁・2,500円

マーシャルを中心に、ジェヴォンズ、ワルラス、シュムペーター、ケインズ等を配し、19世紀末から20世紀前半にかけての時代思潮を背景に近代経済学誕生のドラマを清新な筆致で描く。理論と評伝が渾然一体となっており、経済学史がこれほどおもしろく書かれたことがあったろうか。

〔1989〕978-4-8158-0115-1

H. A. ヴィンクラー編 保住敏彦／近藤潤三／丸山敬一／後藤俊明／河野裕康訳

組織された資本主義

〔品切〕A5判・230頁・2,700円

西ドイツの社会史家コッカやヴェーラーらが19世紀末以降の現代資本主義を特徴づける新しいパラダイムとして「国家独占資本主義」に替えて提起した「組織資本主義」概念の有効性と問題点を包括的に究明することによって、混迷する現代資本主義論に新鮮な視角を提供する。

〔1989〕978-4-8158-0120-5

川喜田二郎編

国際技術協力の哲学を求めて

〔品切〕四六判・188頁・1,800円

近年国際技術協力への関心が様々の分野とレベルで高まってきている。本書は、国際技術協りに多年たずさわってきた著者たちが、技術協力を単に技術の問題としてだけでなく、協力国・受入国の社会・文化をつつみこむ多面的で深い問題として考察する。

〔1989〕978-4-8158-0124-3

伊藤正直著

日本の対外金融と金融政策

—1914～1936—

A5判・372頁・6,000円

本書は、両大戦間期わが国の貿易金融、資本移動、対外金融機関、通貨政策やそれらを媒介とした通貨、物価、金利等、対外金融と金融政策の構造・機能を精緻に分析して、国際金本位制の崩壊から世界恐慌をへてブロック経済にいたる日本経済の特質を浮彫りにする。**エコノミスト賞受賞**

〔1989〕978-4-8158-0125-0

真継隆／牧戸孝郎／奥野信宏編

国際化と地域経済

—これからの東海経済—

A5判・250頁・3,200円

現在、東海の経済はどのような状況にあり、経済の環境変化にどのように対応し、将来どのような経営を目指しているのか。本書は、わが国の生産活動の中心地域である東海地方に焦点をあてながら、地域経済と日本経済の国際化の関わりを様々な側面から分析する。

〔1990〕978-4-8158-0132-8

菱山 泉著

ケネーからスラッファへ

—忘れえぬ経済学者たち—

四六判・244頁・2,800円

本書は、ケネー、リカード、マルクス、マーシャル、ワルラス、スラッファなど著者が40年間の経済学研究の途上でめぐり会った忘れえぬ独創的経済学者たちとの対話を通じて、正統派近代経済学体系とは異なる独自の経済学体系の構想を提示する。古典派経済学復権の試み。

〔1990〕978-4-8158-0136-6

小西唯雄編

産業組織論の新展開

〔品切〕A5判・254頁・2,800円

戦後アメリカの反トラスト政策を基礎づけたハーバード学派の産業組織論は、近年の民営化や規制緩和にみられる自由放任路線の台頭によって大きくゆらいでいる。本書は、産業組織論の伝統的体系と新しい諸学派に焦点をあてて理論と現実の展開を体系的に整理・検討する。

〔1990〕978-4-8158-0135-9

西村閑也／深町郁彌／小林襄治／坂本正著

現代貨幣信用論

〔品切〕A5判・300頁・2,500円

本書は、マルクス経済学の立場から書かれた貨幣論および信用論のテキストであるが、非マルクス系の理論展開をも十分視野に入れて、貨幣の本質から金融の自由化や国際化まで、複雑な現代の金融現象を理解するために必要な知識をバランス良く提供する。

〔1991〕978-4-8158-0154-0

稲毛満春著

マクロ経済政策の研究

—石油ショック・変動相場制・対外不均衡—

〔品切〕A5判・346頁・3,500円

1970年代から80年代にかけてわが国をはじめ欧米先進諸国が直面したマクロ経済政策上の諸問題——石油ショック・変動相場制・対外不均衡——を、体系的に一貫した緻密な論理で分析する。中級・上級のマクロ理論を学びたい人々のみならず経済政策に関心ある実務家や専門研究者必携の書。

〔1991〕978-4-8158-0160-1

下野恵子著

資産格差の経済分析

—ライフ・サイクル貯蓄と遺産・贈与—

A5判・194頁・3,500円

近年のわが国の土地騰貴を主因とする資産格差の増大は資本主義と民主主義の根幹にかかわる深刻な問題である。本書はこの問題を、資産分布決定の二要因——稼得能力に応じた貯蓄とそれとは別の遺産・贈与——を導入して理論的・実証的に分析し、平等化のための政策を具体的に提言する。

〔1991〕978-4-8158-0166-3

G. アムプロジウス／H. ハバード著 肥前栄一／金子邦子／馬場哲訳

20世紀ヨーロッパ社会経済史

A5判・416頁・3,500円

本書は、最新のデータを駆使して、20世紀ヨーロッパの人口史・社会史・経済史等の多様な諸側面の変容過程を、戦争と恐慌の世紀前半から安定を経て統合に向かう世紀後半への歩みとして俯瞰する。全ヨーロッパ的視点から各国発展の共通性と相違性を一望した野心的な試み。

〔1991〕978-4-8158-0167-0

山本有造著

日本植民地経済史研究

A5判・320頁・6,000円

イデオロギー先行型や個別実証型研究の弊を排して、日本植民地総体の全体構造と特質を通貨・関税制度、国際収支、植民地投資等の分析をつうじて析出、その中で各種植民地の有する特徴を比較史的に明らかにする。数量経済史的手法に貫かれた斬新な植民地経済史研究。

〔1992〕978-4-8158-0174-8

R. カンティロン著 アダム・スミスの会監修 津田内匠訳

商業試論

四六判・290頁・3,500円

後にケネー、スミス等に多大な影響を与えた「政治経済学の揺籃」(ジェヴォンズ)の周到かつ完全訳。訳者自身がルアンで発掘した手稿にもとづく本訳書は、苦心の訳注と画期的な解説とあいまって、この古典の真の姿とフランス経済思想の原型を明らかにする。

〔1992〕978-4-8158-0179-3

根井雅弘著

現代経済学の生誕

〔品切〕四六判・246頁・2,800円

現代経済学の誕生はマーシャル経済学の権威の崩壊から始まると言っているが、本書は現代経済学形成の過程をケンブリッジ学派のマーシャル、ケインズ、ポスト・ケインジアンそしてシュムペーター等を中心に据えて理論的・思想的に論じるとともに経済学古典の新しい読み方を提示する。

〔1992〕978-4-8158-0191-5

鈴木信雄著

アダム・スミスの知識 = 社会哲学

—感情の理論を視軸にして—

〔品切〕A5判・324頁・5,500円

本書は、アダム・スミスの前期著作『哲学論文集』、『道徳感情論』等を、当時主流であった大陸合理論や自然法論の理性中心の哲学に抗する感情の哲学として読み直すことによって、主著『国富論』のスミス経済学体系に新しい光をあてる斬新な研究である。

〔1992〕978-4-8158-0195-3

アダム・スミス著 アダム・スミスの会監修 水田洋ほか訳

アダム・スミス 哲学論文集

〔品切〕四六判・378頁・4,000円

近年のスミス研究は『国富論』をもその一部とするスミス社会哲学＝道徳哲学体系の研究へと移行しつつあり、『道徳感情論』とならぶスミス前期の重要著作である本書は、遺稿集とはいえ18世紀思想史に独自の位置を占め、今後のスミス研究に不可欠なテキストであると言えるだろう。

〔1993〕978-4-8158-0197-7

G. トニオロ著 浅井良夫／C. モルテーニ訳

イタリア・ファシズム経済

A5判・306頁・5,500円

現代イタリアの代表的経済史家が、広い視野と柔軟な方法に基づき、ムッソリーニの権力掌握からリラの安定へ、さらに1929年恐慌からアウトアルキー体制、そして戦争へといたるファシズム期20年間の経済と経済政策の実態を国際経済の中に位置づけて具体的に概説した最良の通史。

〔1993〕978-4-8158-0199-1

皆川芳輝著

多国籍企業の租税戦略

—日本企業のアジア進出を中心にして—

A5判・206頁・3,500円

多国籍企業及び受入れ国の税制が対外投資や資本移転の促進に及ぼす影響を与えるか、あるいはグローバル競争に必要な資金創出のための課税負担最少化戦略等を、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、マレーシア等東南アジア7カ国を中心にして理論的・実証的に考察。

〔1993〕978-4-8158-0207-3

J. スチュアート著 小林昇監訳 竹本洋他訳 古典翻訳叢書

経済の原理

—第1・第2編—

菊判・686頁・12,000円

アダム・スミス『国富論』に先立ち、理論・政策・歴史の諸領域を統合した最初の経済学体系の全訳決定版、ついに完成。本巻は、マルサスを凌ぐ経済学史上最初の本格的な人口論である第1編と、新古典派やケインズ経済理論の先駆をなす均衡論・不均衡論を提示した第2編の、新訳である。

〔1998〕978-4-8158-0340-7

J. スチュアート著 小林昇監訳 竹本洋他訳 古典翻訳叢書

経済の原理

—第3・第4・第5編—

〔RA叢書〕菊判・926頁・15,000円

アダム・スミス『国富論』に先立ち、理論・政策・歴史の諸領域を統合した最初の経済学体系の本邦未訳部分（貨幣論・信用論・租税論）の全訳。経済学が混迷を深める現在、経済学とは何か、経済学は何をなせるのかという根源的問題に対する理論的・思想的解答を秘めた孤峯の古典。

〔2022 (1993)〕978-4-8158-1076-4

安元 稔著

Industrialisation, Urbanisation and Demographic Change in England

菊判・260頁・10,000円

近年発展著しい歴史人口学の成果を社会経済史研究に取り入れて、産業革命期イギリスの工業地帯を対象に、工業化・都市化の進展と周辺農村の農業発展・人口移動・雇用・生活環境等の変化を実証的に明らかにする。本場イギリスにおいても高い評価を得ている労作の英文出版。

〔1994〕978-4-8158-0218-9

家本博一著

南山大学学術叢書

ポーランド「脱社会主義」への道

—体制内改革から体制転換へ—

〔品切〕A5判・286頁・4,000円

第二次世界大戦後の社会主義政権の誕生から、体制内改革をへて社会主義政治・経済体制の自己崩壊にいたるポーランド現代史の全体像を、テクノロジー、教会、知識人、連帯等様々なファクターを入れて明らかにするとともに、市場経済化にむけての具体的なプランを提示する。

〔1994〕978-4-8158-0219-6

黒田明伸著

中華帝国の構造と世界経済

A5判・360頁・6,000円

市場経済の自由な発展が見られた中国が、なぜ世界経済の中核たりえなかったのか？ 中華帝国のダイナミズムを支えた構造を、世界経済への巨視的な展望の下、現地通貨と地域間決済通貨という概念をテコに分析、非均衡型の市場経済モデルを提示した気鋭による力作。サントリー学芸賞受賞

〔1994〕978-4-8158-0223-3

藤瀬浩司編

世界大不況と国際連盟

A5判・430頁・8,000円

従来資本主義の体制的危機として捕らえられてきた30年代の大不況期は、戦後の繁栄を前提として顧みる時、同時に戦後資本主義の制度や政策体系が模索・構築された時期でもあった。本書は大不況期資本主義の構造転換を国際連盟の残した未開拓の貴重な資料を使って長期的・構造的に究明。

〔1994〕978-4-8158-0225-7

P. デビッドソン著 永井進訳

ケインズ経済学の再生

—21世紀の経済学を求めて—

四六判・208頁・2,500円

現代経済学を形成する新古典派、マネタリスト、ポスト・ケインジアンとの相違は何か？ 21世紀に向けて有効な経済学はどれか？ 失業やインフレをめぐる論争の検討を通じて、ケインズ経済学の核心をなす貨幣、契約、不確実性、政府等の概念を明快に展開するケインズ経済学復権の書。

〔1994〕978-4-8158-0233-2

今井光映著

ドイツ家政学・生活経営学

〔品切〕A5判・330頁・5,000円

自然有機体論的なアメリカ家政学に対して、社会有機体論をとるドイツ家政学は、日本では英語に比べて語学的にもなじみが薄かった。本書は経営学と密接なかわりをもつドイツ家政学の原理を著者30年の資料収集を基に総合的にまとめた渾身の研究書である。

〔1994〕978-4-8158-0235-6

奥野信宏／焼田党／八木匡編著

社会資本と経済発展

—開発のための最適戦略—

A5判・214頁・3,500円

一国の社会資本の整備拡充は、開発戦略としてその国の経済発展に対して極めて重要な意味をもつ。本書は、先進国・途上国8カ国を対象に、各国の経済発展の段階に応じて、社会資本が果たした役割と直面する問題を、わが国の経験と対比しながら明らかにする社会資本の国際比較。

〔1994〕978-4-8158-0241-7

成生達彦著

南山大学学術叢書

流通の経済理論

—情報・系列・戦略—

〔品切〕A5判・358頁・5,500円

本書は、専売店制、再販制や委託制をはじめとするチャネル内の垂直的取引構造、チャネル間での戦略的競争行動、さらには我国流通システムの諸問題を、近年のミクロ経済理論の発展を踏まえて明快に分析する。日本商業学会優秀賞、経営科学文献賞受賞

〔1994〕978-4-8158-0244-8

小林 昇著

最初の経済学体系

四六判・192頁・2,500円

スミスやケネーと並ぶ経済学の水源地とされながら実は『国富論』や『経済表』に先立って最初の経済学体系となったステュアートの『経済の原理』。本書は、斯界の碩学が『経済の原理』全編の踏査を踏まえて、広範で懐の深いこの最初の経済学体系の世界に平易明快な文章で読者を誘う。

[1994] 978-4-8158-0245-5

橘川武郎著

日本電力業の発展と松永安左エ門

【RA叢書】A5判・480頁・6,500円

現在のわが国の電力企業形態（民営九電力体制）は、欧米諸国とは異なる独特の企業形態をもって、日本経済の発展に重要な役割を果たしてきた。本書は、わが国電力業の一貫した自立性を実証するとともに、電力業の体現者松永安左エ門の足跡と役割を日本経済史・経営史に正当に位置づける。

[2022 (1995)] 978-4-8158-1077-1

井上 巽著

金融と帝国

—イギリス帝国経済史—

A5判・192頁・3,200円

19世紀中葉「世界の工場」としての地位に君臨した英国は、独・米の台頭とともに1920・30年代にかけて「世界の銀行家」へと変質していく。本書は、この英帝国経済の構造と特質を、英・印関係を中心とする世界的関係を視野に入れて「金融と帝国」という新視点から分析する。

[1995] 978-4-8158-0257-8

Ph. デイーン著 中矢俊博／家本博一／橋本昭一訳

経済認識の歩み

—国家と経済システム—

四六判・314頁・3,200円

著者はイギリス王立経済学会会長も歴任した数量経済史の世界的権威。本書は、「経済を巡る市場と国家の関係」という優れて今日の問題意識に基づきながら、経済学の誕生から現代まで300年の歴史を、道徳・科学・政治等のより広い歴史的文脈に位置づけて明快に描いた経済思想史入門。

[1995] 978-4-8158-0264-6

藤井隆至著

柳田國男 経世済民の学

—経済・倫理・教育—

A5判・458頁・6,500円

柳田國男の長い学問遍歴と思想体系の底にある根源的問題意識とは何だったのか？ 本書は、柳田学の「農政学から民俗学へ」の転身挫折説を退けて、「国民総体の幸福」実現のために若き日に学んだ社会政策学の学風を生涯と著作に貫いた経世済民の学として、柳田学の全体系を解説する。

[1995] 978-4-8158-0265-3

竹本 洋著

経済学体系の創成

—ジェイムズ・ステュアート研究—

A5判・362頁・6,300円

従来スミス以前の経済学として低い評価にあったステュアート『経済の原理』全編のわが国最初の本格的な研究。『国富論』による経済学誕生という通説を覆し、マルクスやケインズに囚われることなく、自由な解釈を通じてこの最初の経済学体系の宿す豊かな可能性を示す。日本学士院賞受賞

[1995] 978-4-8158-0273-8

星野秀利著 齊藤寛海訳

中世後期フィレンツェ毛織物工業史

【RA叢書】A5判・416頁・10,000円

本書は、イタリア各地の文書館・資料館所蔵の一級の原史料を駆使して、イタリア・ルネサンスの経済的基盤であったフィレンツェ毛織物工業を、西欧地中海経済史に長期動態的に位置づける。従来の当該工業史に関する歴史像を書き換え、欧米学界においても高い評価を受けた実証研究。

[2022 (1995)] 978-4-8158-1078-8

松嶋敦茂著

現代経済学史 1870～1970

—競合的パラダイムの展開—

A5判・304頁・3,800円

限界革命以降現代まで経済学百年の歴史的展開を、修正されたクーン・モデルに基づき、競合的諸パラダイムの成長進化の過程として、理論内在的に、より多元主義的に、従って経済学の歴史を一義的發展論としてではなくむしろ多義的進化論的なものとして理解しようとするユニークな試み。

[1996] 978-4-8158-0290-5

野原敏雄著

現代協同組合論

—21世紀への展望と課題—

[品切] A5判・256頁・3,500円

資本主義生成期に社会的弱者救済の組織として出発した協同組合は、その発展に伴い様々な困難を抱えるに至っている。本書は、福祉、環境、貧困等の社会問題に取り組む「社会的経済」をキーワードに、世界と日本の協同組合の現状と21世紀に向けての課題と展望を明らかにする。

[1996] 978-4-8158-0291-2

須藤 功著

アメリカ巨大企業体制の成立と銀行

—連邦準備制度の成立と展開—

A5判・360頁・6,000円

19世紀後半から1930年代を対象に、商業銀行の活動と連邦準備制度の成立・展開を巨大企業体制の成立との関係において実証的に分析し、アメリカ固有の銀行と産業、国家、国民の関係を明らかにする。アメリカ資本主義史の新たな側面を抽出。**アメリカ学会清水博賞受賞**

[1997] 978-4-8158-0305-6

岡田元浩著

巨視的経済理論の軌跡

—リカードウ、マルサスから「ケインズ革命」まで—

A5判・282頁・5,500円

本書は、リカードウ、マルサス等19世紀前半の古典派から新古典派の台頭を経て、ヴィクセル、ホブスン、ケインズ『一般理論』に至る約1世紀間の貨幣的経済理論の軌跡を、同時代の他の経済学者の主要な学説との関係をも考慮することによって明らかにする。本格的な貨幣経済理論史。

[1997] 978-4-8158-0309-4

加藤弘之著

中国の経済発展と市場化

—改革・開放時代の検証—

A5判・338頁・5,500円

改革・開放以後の中国の市場経済化はどこまで到達したのか。その独自性と特質とは何か。本書は、現代中国経済を計画経済から市場経済への移行と伝統経済から市場経済への移行という「二重の移行過程」論視角から捉え直し、中国市場化の全体像に実証的に迫った力作。**大平正芳記念賞受賞**

[1997] 978-4-8158-0310-0

馬場宏二著

新資本主義論

—視角転換の経済学—

A5判・370頁・3,500円

戦後社会科学に大きな影響をあたえた宇野経済学から出生した著者が、マルクスや宇野の体系に捕らわれることなく、資本主義の基本概念から現代資本主義論までを、大衆的過剰富裕化という強烈な問題意識に焦点を合わせて読み解く。従来の資本主義批判とは全く異なる根源的な資本主義批判。

[1997] 978-4-8158-0318-6

嘉数啓／吉田恒昭編

アジア型開発の課題と展望

—アジア開発銀行30年の経験と教訓—

[品切] A5判・382頁・5,500円

アジアにおける近年のダイナミックな経済成長に貢献してきたアジア開発銀行30年の総括と展望をこめて、経済、農業、運輸・通信、電力、環境、教育等、各分野の専門家が開発プロジェクトを具体的なかつ詳細に解説し、アジア型開発の独自性と特質について考察。**アジア・大洋賞特別賞受賞**

[1997] 978-4-8158-0319-3

P. J. ケイン／A. G. ホブキンズ著 竹内幸雄／秋田茂訳

ジェントルマン資本主義の帝国Ⅰ

—創生と膨張 1688～1914—

A5判・494頁・5,500円

「大英帝国」を動かすものは何か？ 地主から金融・サービスの担い手へと転化しつつイギリス近・現代史を貫くジェントルマンの支配と海外膨張の論理を明らかにし、活発な論争を呼び起こした「ジェントルマン資本主義論」の決定版第1巻、待望の邦訳。

〔1997〕978-4-8158-0320-9

P. J. ケイン／A. G. ホブキンズ著 木畑洋一／且祐介訳

ジェントルマン資本主義の帝国Ⅱ

—危機と解体 1914～1990—

A5判・338頁・4,500円

イギリスは果たして衰退したのか？ 戦間期における、国際金融・サービスセンターとしてのロンドン・シティの勢力巻き返しとジェントルマン資本主義の力を描き出し、活発な論争を呼び起こした「ジェントルマン資本主義論」の決定版第2巻、待望の邦訳。

〔1997〕978-4-8158-0321-6

G. M. ホジソン著 八木紀一郎／橋本昭一／家本博一／中矢俊博訳

現代制度派経済学宣言

A5判・368頁・5,600円

本書は、既成の、とりわけ新古典派的経済学が抱える方法的思想的問題点を明快にサーヴェイするとともに、契約・所有権・市場・企業等を制度派的観点から再審再考することによって、人間の存在と行為に対して伝統や慣習を含む社会的制度的諸要因のもつ本質的意味を解明した新経済学宣言。

〔1997〕978-4-8158-0323-0

田中眞晴編著

自由主義経済思想の比較研究

〔品切〕A5判・352頁・6,000円

1970年代以降、福祉国家と社会主義の行き詰まりを背景に世界的規模で、市場メカニズムへの信頼をベースにした自由主義の復権が著しい。本書は、ヨーロッパ経済思想のメインストリームである自由主義経済思想の種々相を、現代的観点から多角的・比較史的に考察した注目の論集である。

〔1997〕978-4-8158-0331-5

森川英正／由井常彦編

国際比較・国際関係の経営史

A5判・372頁・6,000円

現在の経営史研究は、一方で企業経営史の国際比較へ、他方で国際関係を背景とした企業経営史の研究へとその領域を拡大することによって、貴重な成果をあげつつある。本書は、国際比較・国際関係経営史という新しい方向を一望するべく編まれた待望の論集。

〔1997〕978-4-8158-0334-6

谷本雅之著

日本における在来的経済発展と織物業

—市場形成と家族経済—

A5判・492頁・6,500円

幕末から大正期までの織物業の展開を検討することによって、在地商人と小農家族の活動を結合した間屋制家内工業の発展の論理を捉え、機械制大工場を前提とする従来工業化論を相対化、「在来的経済発展」の持つ意義を明らかにする。日経・経済図書文化賞、中小企業研究奨励賞受賞

〔1998〕978-4-8158-0339-1

デーヴィッド・A. ハウンシェル著 和田一夫／金井光太郎／藤原道夫訳

アメリカン・システムから大量生産へ

—1800～1932—

A5判・546頁・6,500円

大量生産はいかにして生まれたのか？——アメリカン・システムの発生からフォードの大量生産システムにいたる展開を、直線的な発展という神話を覆しつつ、銃器・ミシン・木工から農器具・自転車・自動車まで、相互に関連する技術を綿密に跡づけることによって描き出した技術史の傑作。

〔1998〕978-4-8158-0350-6

御崎加代子著

ワルラスの経済思想

——一般均衡理論の社会ヴィジョン——

A5判・218頁・4,800円

本書は、一般均衡理論の創設によって現代経済理論の基礎を築いたレオン・ワルラスの思想的側面を解明するものである。その経済理論と背後にある理念および社会ヴィジョンを関係づけることによって、思想としてのワルラス経済学の全体像に迫り、純粋理論の研究にも新生命をきりひろく。

[1998] 978-4-8158-0351-3

塩見治人／堀一郎編

日米関係経営史

——高度成長から現在まで——

A5判・406頁・3,600円

「繁栄の60年代」に続く四半世紀は、米国の停滞と日本の急成長、日米逆転、さらに再逆転を含む転換期であり、世界市場を舞台にグローバル寡占と多層ネットワークが成長した。本書は、このようなグローバル競争における日米企業の相互作用を通して産業発展の動態を歴史的に展望する。

[1998] 978-4-8158-0353-7

和田一夫編

豊田喜一郎文書集成

A5判・650頁・8,000円

本書は、戦中の日本で自動車製造というリスクな新規事業に取り組み、状況に翻弄されながらも事業の礎を築いた起業家・豊田喜一郎が書き残した文書を初めてまとめたものであり、合理的な判断に基づき事業を展開していった足跡を示すとともに、彼の夢にかける情熱が読みとられよう。

[1999] 978-4-8158-0358-2

吉岡昭彦著

帝国主義と国際通貨体制

A5判・280頁・4,800円

最初の資本主義国イギリスにおける一国金本位制確立から「大不況」をへて第一次大戦にいたる国際金本位制完成までの曲折に満ちた道程と、主要帝国主義国の再生産＝信用構造およびインド植民地経済の検討を通して、国際通貨体制の全体的編成とその帝国主義的性格を実証的に解明。

[1999] 978-4-8158-0368-1

西村周三著

保険と年金の経済学

A5判・240頁・3,200円

今ほど保険や年金に対する関心が高まったことはなかった。本書は、リスクについての考え方を中心に、伝統的な教科書とは異なる視点を随所で提起しながら、保険と年金の経済学の基礎を平易に解説した入門書であり、めまぐるしく変わる制度の展開を根本から考えるために必読の一冊である。

[2000] 978-4-8158-0372-8

S. クレスゲ／L. ウェナー編 嶋津格訳

ハイエク、ハイエクを語る

四六判・316頁・3,200円

激動の時代を生けるとともに、市場経済、自由主義、法の支配の意味を考え抜き、20世紀最大の経済学者＝社会哲学者の一人と見なされるようになったハイエクの、自伝的メモと数多くのインタビューからなる興味尽きない回想録。ハイエク自身の声が率直かつ明快に読者に語りかける。

[2000] 978-4-8158-0374-2

龍谷直人著

アジア国際通商秩序と近代日本

A5判・520頁・6,500円

幕末の開港はアジアへの開港でもあった。——本書は、華僑や印僑らが織りなす、非公式的かつ脱領域的なアジア通商網の存在と、それへの日本の対抗と依存を通じて、近代アジアのダイナミズムを析出するとともに、19世紀後半から戦前期までの日本の近代史を新たに捉え直した労作である。

[2000] 978-4-8158-0376-6

ロジャー・メイソン著 鈴木信雄／高哲男／橋本努訳

顕示的消費の経済学

A5判・268頁・3,600円

奢侈、見栄、スタイルへの配慮などに示される消費の本質を、自己顕示、社会的承認の獲得、優越性へのあくなき欲望などの「非合理的な」人間本性のなかに見出し、18世紀から現代にいたる顕示的消費論の丹念な跡付けを通じて、主流派経済学による消費分析の限界を提示した好著。

〔2000〕978-4-8158-0391-9

末廣 昭著

キャッチアップ型工業化論

—アジア経済の軌跡と展望—

A5判・386頁・3,500円

製造業を中心とする経済発展とその危機を、タイの事例を導きの糸に日本との比較も行いながら、工業化の担い手、イデオロギー、制度・組織を焦点として、「まるごと」捉えたアジア経済論。グローバル化が喧伝される中、「モノ作り」と「ひと」の問題を見つめ直す。**アジア・太平洋賞大賞受賞**

〔2000〕978-4-8158-0394-0

塚田弘志著

デリバティブの基礎理論

—金融市場への数学的アプローチ—

A5判・314頁・6,000円

デリバティブ取引の急速な拡大に伴い金融業は変貌を遂げ、数学的訓練を受けた専門家による多様な商品の開発が続いている。本書は、デリバティブの価格決定についての理論を統一的な視点から整理し、複雑に見える理論の基本構造とその経済学的意味を見通しよく記述した本格的解説書。

〔2001〕978-4-8158-0406-0

鍋島直樹著

ケインズとカレツキ

—ポスト・ケインズ派経済学の源泉—

A5判・320頁・5,500円

本書は、ポスト・ケインズ派経済学の現代的展開に照らしてケインズとカレツキの経済学を、理論・思想・政策から総体的に検討し、その統合と発展の方向を探究した力作であり、特に貨幣・金融論に光を当てることによって政治経済学の今日の課題に応える。**経済学史学会研究奨励賞受賞**

〔2001〕978-4-8158-0412-1

ビクター・バルマー＝トーマス著 田中高／榎股一
索／鶴田利恵訳

ラテンアメリカ経済史

—独立から現在まで—

A5判・488頁・6,500円

ラテンアメリカ地域はなぜ従属的低成長を余儀なくされたのか？ 累積債務、ハイパーインフレ等の経済失政を教訓に、新たな成長戦略を模索するラテンアメリカ諸国の経済史を、1820年代独立以降のマクロデータの丹念な解析によって描き出し、その全体像を一新した初の本格的通史。

〔2001〕978-4-8158-0415-2

J. A. シュンペーター著 八木紀一郎編訳

資本主義は生きのびるか

—経済社会学論集—

A5判・404頁・4,800円

創造的破壊の時代に、資本主義の本質を透徹したヴィジョンで語り尽くした刺激的論集。企業家、貨幣制度、恐慌、社会主義をめぐる議論、また時々経済状況を分析した的確な診断は、シュンペーターの理論的探究の方向性を示すとともに、その人と思想をも浮かび上がらせる。

〔2001〕978-4-8158-0416-9

田中敏弘著

アメリカの経済思想

—建国期から現代まで—

A5判・272頁・3,500円

アメリカ経済学はいかにして今日の地位を築き得たのか？ 建国期の躍動感あふれる初期経済学から、最新理論までを包括的に叙述、現代世界に圧倒的な影響を与えるアメリカ経済学の源流とその多様な展開を示し、激しい理論的角逐の底に流れるアメリカ独自の世界を一望する好著。

〔2002〕978-4-8158-0424-4

粕谷 誠著

豪商の明治

—三井家の家業再編過程の分析—

A5判・304頁・5,500円

近世商家から近代日本を代表する資本家へ——銀行、物産を事例に、明治初期の資産状況、土地経営や雇用制度など、従来見落とされてきた問題を精査、中上川経営改革への理解を大幅に深化させるとともに、近代的経営組織が創出される過程を鮮やかに描きだした、財閥史研究の画期的成果。
〔2002〕978-4-8158-0429-9

和田一夫／由井常彦著

豊田喜一郎伝

〔品切〕A5判・420頁・2,800円

若き技術者として出発、父・豊田佐吉の事業を継承するとともに、繁栄のなかに潜む危機を察知し、時代の制約の中で苦闘しながらも日本の自動車事業の創出に精魂を傾けた豊田喜一郎——本書は、トヨタ自動車の創業者の実像を、綿密な資料調査のもとづき描き出した伝記の決定版である。
〔2002〕978-4-8158-0430-5

高 哲男編

自由と秩序の経済思想史

A5判・338頁・2,800円

どのような社会秩序がよりよい自由を実現しうるのか?——市場化が進展する中、現代の経済社会を多角的に捉え構想していくために、経済学・経済思想の歴史的=重層的な理解をめざしたリーダーブルなテキスト。ロック・ヒュームからステイグリッツにいたる思想の「断層写真」を大胆に構成。
〔2002〕978-4-8158-0431-2

中兼和津次著

シリーズ現代中国経済 1

経済発展と体制移行

四六判・264頁・2,800円

改革開放以後、低所得経済からより発展した経済へ、また社会主義計画経済から資本主義市場経済へ、二重の構造転換を果たしつつ、めざましい成長をとげる中国経済——その特色と全体像を、社会統計学的手法を用い、徹底した国際比較と五十余年にわたる時系列分析により浮き彫りにする。
〔2002〕978-4-8158-0441-1

巖 善平著

シリーズ現代中国経済 2

農民国家の課題

四六判・264頁・2,800円

農業経営の実態、戸籍制度に象徴される都市との格差、国家—農民関係、郷鎮企業の発展、食糧自給問題、農産物貿易など、人口の7割を占める中国の農村・農業・農民が抱える諸問題と過去半世紀の軌跡を、現地調査に基づいて立体的に描き出すとともに、今後の展望と発展戦略を指し示す。
〔2002〕978-4-8158-0442-8

九川知雄著

シリーズ現代中国経済 3

労働市場の地殻変動

四六判・262頁・2,800円

1990年代後半から中国の都市部では失業問題が急速に悪化し、農村では余剰労働力が現れつつある。これらはどのような歴史的背景から生まれ、現状はどうか。こうした労働市場の地殻変動は中国経済をどのように変貌させていくのか。経済学、歴史、統計からアプローチ。**大平正芳記念賞受賞**
〔2002〕978-4-8158-0443-5

今井健一／渡邊真理子著

シリーズ現代中国経済 4

企業の成長と金融制度

四六判・360頁・2,800円

工業化の担い手としての企業に焦点を当て、公企業主体の工業化から90年代末以降の民営化推進にいたる企業制度発展のダイナミズムを分析するとともに、企業金融（ミクロ）から金融調節手段（マクロ）まで、従来否定されてきた金融機能が再生する過程を見通しよく整理した待望の一冊。
〔2006〕978-4-8158-0444-2

大橋英夫著

シリーズ現代中国経済 5

経済の国際化

対外開放は中国経済に何をもたらしたのか。対外貿易と直接投資は未曾有の経済成長を促し、市場化を押し進めた。本書は、対外開放と貿易体制の改革過程をふり返り、資本輸入国から資本輸出国へと変貌を遂げ、WTO加盟によりグローバル経済に統合されつつある中国経済の実像を描く。

[2003] 978-4-8158-0445-9

四六判・262頁・2,800円

加藤弘之著

シリーズ現代中国経済 6

地域の発展

中国では経済のグローバル化にともない地域への関心が高まる一方、地域格差の拡大、地域保護主義の台頭など、地域をめぐる問題がますます深刻化している。本書は、複数の地域の集合体として中国を捉える視点から、特に地域開発に焦点をあて、その戦略と発展のダイナミズムを分析する。

[2003] 978-4-8158-0446-6

四六判・252頁・2,800円

佐藤 宏著

シリーズ現代中国経済 7

所得格差と貧困

経済成長の果実は、人々にどのように分配され享受されているのだろうか。本書は、大規模な世帯調査にもとづき、経済活動の帰結であり政治・社会変動にも大きなインパクトを及ぼす世帯所得分配という視点から、現代中国の経済と社会を浮き彫りにする。**発展途上国研究奨励賞受賞**

[2003] 978-4-8158-0447-3

四六判・264頁・2,800円

菱田雅晴／園田茂人著

シリーズ現代中国経済 8

経済発展と社会変動

改革・開放後のめざましい経済成長にともない現代中国社会に起きつつある巨大な変動を、マクロな制度変化や格差・貧困・腐敗などの社会現象、そしてひとびとの経済心理や価値観、職業意識の変化といったミクロな動きの二方向から捉え、中国社会の光と陰、その来し方・行く末を展望する。

[2005] 978-4-8158-0448-0

四六判・244頁・2,800円

田尾雅夫／西村周三／藤田綾子編

超高齢社会と向き合う

人口の4人に1人が高齢者という、未曾有の超高齢社会をわが国は迎えようとしている。本書は、高齢者の心理・行動と、その生活を支える制度・政策の二つの視点から、来るべき社会を概観し、そこで実り豊かに生きぬくための具体的な指針を提供する。

[2003] 978-4-8158-0462-6

A5判・246頁・2,800円

吉田博之著

景気循環の理論

—非線型動学アプローチ—

景気循環はどのようにして起こるのか。カオス理論など動学理論の最新の成果をふまえ、数学的解析とシミュレーションをバランスよく用いることによって、有効需要はもちろんマクロ安定化政策の効果を組み込んだ循環的成長モデルを構築。混迷する経済政策に確かな基礎を提供する。

[2003] 978-4-8158-0469-5

A5判・236頁・4,800円

山本有造著

「満洲国」経済史研究

膨張する日本帝国のもと、満洲国経済はいかなる位置を占めたのか？ 対外経済関係、周辺交易をも視野に、大豆から鉱工業にいたる満洲国生産力をマクロデータを駆使して復元、緻密な数量経済史的分析により、建国から未解明であった40年代までの満洲国経済の全体像を初めて示した労作。

[2003] 978-4-8158-0474-9

A5判・332頁・5,500円

高 哲男著

現代アメリカ経済思想の起源

—プラグマティズムと制度経済学—

A5判・274頁・5,000円

今日「世界標準」になったとも言われるアメリカ経済思想の核心を、19世紀末から20世紀初めの進化論、プラグマティズム、制度主義などの知的潮流に探り、自由主義における保守と革新のダイナミズムを軸に、イーリー、ヴェブレン、ミッチェル、コモンズらの制度変革の思想を描き出す。

[2004] 978-4-8158-0477-0

金井雄一著

ポンドの苦闘

—金本位制とは何だったのか—

A5判・232頁・4,800円

兩大戦間期イギリスで、戦争、恐慌などの曲折を経て最終的に放棄された金本位制の実態を、イングランド銀行金融政策の精査により解明、今日のマネタリズムにも及ぶ金本位制の神話的理解を斥けて金融政策の本質に迫るとともに、戦後へと続く戦間期の資本主義史に新たな展望を拓く労作。

[2004] 978-4-8158-0479-4

橋川武郎著

日本電力業発展のダイナミズム

A5判・610頁・5,800円

際立った活力を誇った日本電力業の発展の核心とは何であったのか。電灯会社の創成から今日まで、日本電力業120年の軌跡を描きだし、電力自由化後の新たな競争の時代への指針を示す。膨大な資料に基づき、経営と組織の役割を捉えた電力産業史研究の決定版。エネルギーフォーラム賞受賞

[2004] 978-4-8158-0482-4

ジェフリー・オーウェン著 和田一夫監訳

帝国からヨーロッパへ

—戦後イギリス産業の没落と再生—

A5判・508頁・6,500円

イギリスの「ものづくり」は復活したか——主要産業を徹底分析、なぜある産業は衰退したのに他は健全なのかを歴史的に解明するとともに、イギリス経済が帝国からヨーロッパ域内貿易の重視へと転換することで再生したとして、経済没落という通説に挑戦。日本経済の今後にも示唆に富む。

[2004] 978-4-8158-0483-1

山口重克編

新版 市場経済

—歴史・思想・現在—

A5判・348頁・2,800円

世界を席捲し、ますます大きな位置を占めつつある市場経済の役割を、私たちはどのように考えればよいのか？ グローバリゼーションの進展、金融革命、アジア経済の台頭など新たな潮流をふまえ、その光と影をバランスよく解説、市場経済のとらえ方を基礎から身につけられる経済学入門。

[2004] 978-4-8158-0496-1

李 秀澈著

環境補助金の理論と実際

—日韓の制度分析を中心に—

A5判・266頁・5,500円

環境補助金は汚染者負担原則に反するとして十分研究されてこなかった。本書は、その経済効率性や汚染抑制へのインセンティブ機能を分析するとともに、ポリシー・ミックスにおける効果を政治経済学的に把握、理論と制度実態の両面から検討を加え、環境政策手段として積極的に評価する。

[2004] 978-4-8158-0497-8

竹本 洋著

『国富論』を読む

—ヴィジジョンと現実—

A5判・444頁・6,600円

文明の進歩によって誰もが豊かになれる、というスミスのヴィジジョン＝経済学の約束は果たして実現されたのか。穀物と民衆、利益と秩序、投機と組織、帝国と現代、という四つの視点で『国富論』を読み直し、スミスの叙述の臨界から、市場原理のもとづく現代社会の困難を浮かび上がらせる。

[2005] 978-4-8158-0519-7

石井寛治／中西聡編

産業化と商家経営

—米穀肥料商廣海家の近世・近代—

A5判・528頁・6,600円

近世からの商家廣海家に残された膨大な経営史料の分析をもとに、近世商家の近代への移行を新たな水準で解明、日本の産業発展と大阪湾岸の地域経済に与えた影響を示すとともに、近代日本の展開過程における商取引・株式投資の役割を徹底的な実証により浮き彫りにした画期的成果。

〔2006〕978-4-8158-0528-9

田中敏弘著

アメリカ新古典派経済学の成立

—J. B. クラーク研究—

A5判・426頁・6,000円

シュンペーターにより「アメリカ限界主義の父」と呼ばれた、アメリカ近代経済学の創始者 J. B. クラークの経済学の全体像と形成過程を、マーシャルやヴェブレンらとの関係を含め、新資料を踏まえて明らかにし、アメリカ新古典派経済学成立時の知的ドラマを描き出したライフワーク。

〔2006〕978-4-8158-0530-2

池尾愛子著

日本の経済学

—20世紀における国際化の歴史—

A5判・366頁・5,500円

安井琢磨、青山秀夫、森嶋通夫、赤松要など国際水準の経済学者を多数輩出した日本の経済学の歴史を、一般均衡理論の展開や応用経済学の確立を軸に国際的文脈のなかで描き出す。20世紀前半の理論・計量経済学の白頭から今日の標準的経済学への発展過程を日本から捉えた成果。

〔2006〕978-4-8158-0537-1

八木紀一郎著

社会経済学

—資本主義を知る—

A5判・256頁・2,800円

絶えざる変化を示す資本主義の中心的メカニズムとは何か。再生産システムとしての資本主義を基本的しくみから解説、現代の社会編成のあり方を考える。経済学に社会的・歴史的視野を回復するとともに、マルクス経済学から社会経済学への大きな展開を示した新しいテキスト。

〔2006〕978-4-8158-0539-5

大田一廣／鈴木信雄／高哲男／八木紀一郎編

新版 経済思想史

—社会認識の諸類型—

A5判・364頁・2,800円

ヒュームからサミュエルソン、ガルブレイス、センまで、25人の代表的経済学者の経済・社会認識の歩みをその人物・思想・理論から平易に解説した好評テキストの新版。限界革命以前・以後の展開を辿るとともに、経済学における社会認識・思想の規定的役割に迫った最良の経済思想入門。

〔2006〕978-4-8158-0540-1

E. L. ジョーンズ著 天野雅敏／重富公生／小瀬一／北原聡訳

経済成長の世界史

A5判・246頁・3,800円

経済成長の諸起源を、ヨーロッパ、日本、中国などから析出、遍する成長への性向とともに、その発展を抑制した諸要因の除去こそが決定的であることを示して、産業革命の核心的テーマに挑戦、諸地域の経済的勃興を新たな世界史的視野で描き出したグローバルヒストリーの先駆的著作。

〔2007〕978-4-8158-0544-9

L. マーフィー／T. ネーゲル著 伊藤恭彦訳

税と正義

A5判・266頁・4,500円

「税は公平であるべきだ」と多くの人が言う。しかし、その意味をきちんと考えることは実は難しい。本書は、現代正義論の観点から、これまでの租税理論を根本的に再検討したうえで、課税ベース、累進性、相続、差別といった具体的論点に説きおよび、アメリカで大きな反響を呼んだ話題作。

〔2006〕978-4-8158-0548-7

末廣 昭著

ファミリービジネス論

—後発工業化の担い手—

A5判・378頁・4,600円

ファミリービジネスは遅れた企業形態なのか？アジアやラテンアメリカの経験をふまえ、タイにおける豊富な事例に基づきながら、「進化するファミリービジネス」の論理を明らかにし、グローバル化時代における淘汰・生き残りの分岐点と、今後の行方を示した画期的論考。**櫻山純三賞受賞**
〔2006〕978-4-8158-0553-1

橘川武郎／粕谷誠編

日本不動産業史

—産業形成からポストバブル期まで—

A5判・410頁・5,500円

日本の都市景観を形成し、産業インフラの提供からバブルまで、日本の経済活動に大きな影響を与え続けた重要産業の全体像を、都市・住宅開発から埋立や農地転換、法制度、金融制度も視野に入れ、鮮明に描く。不動産業の軌跡を初めて総合的に捉えた通史。**不動産協会優秀著作奨励賞受賞**
〔2007〕978-4-8158-0568-5

植村博恭／磯谷明德／海老塚明著

新版 社会経済システムの制度分析

—マルクスとケインズを超えて—

A5判・468頁・3,600円

ポスト・ケインジアン、レギュレーション理論、進化経済学など、非新古典派経済学の諸理論を統合し、資本主義経済の多様性とダイナミズムを、制度の観点から鋭く分析した好評テキスト。諸理論の最新の成果を幅広く盛り込んだ本書は、新古典派経済学へのオルタナティブを提起する。
〔2007〕978-4-8158-0569-2

本郷 亮著

ピグーの思想と経済学

—ケンプリッジの知的展開のなかで—

A5判・350頁・5,700円

ケンプリッジ学派の高峰にして厚生経済学の確立者の人物・思想・経済学を、文献の精査により包括的に捉え、その厚生経済学の真の意義を浮き彫りにするとともに、ケインズとの長年にわたる重層の対立を解き明かすことで、新たなピグー像を提示した力作。**経済学史学会研究奨励賞受賞**
〔2007〕978-4-8158-0574-6

須藤 功著

戦後アメリカ通貨金融政策の形成

—ニューディールから「アコード」へ—

菊判・358頁・5,700円

今日的な通貨金融政策への飛躍をもたらした連邦準備制度独立（＝アコード）への道程を、ニューディール銀行制度改革とその課題の克服過程をめぐる新史料から捉え直し、現代の金融革新へと帰結するアメリカ固有の銀行制度の歴史的意義を解明した力作。**連合駿台会学術賞受賞**
〔2008〕978-4-8158-0584-5

前田裕子著

水洗トイレの産業史

—20世紀日本の見えざるイノベーション—

A5判・338頁・4,600円

20世紀とはトイレ水洗化の世紀でもあった。排泄のための空間から衛生的で快適な空間へ、わたしたちの日常を変えた密やかで偉大なイノベーションを、それに携わった人々の思想や行動とモノづくりの関係のなかで捉え、トイレ工業化の視点から日本近代化の歴史を浮かび上がらせた快作。
〔2008〕978-4-8158-0592-0

塩見治人／橘川武郎編

日米企業のグローバル競争戦略

—ニューエコノミーと「失われた十年」の再検証—

A5判・418頁・3,600円

バブル崩壊後の長期不況に苦しんだ日本と、新興企業の叢生に沸いたアメリカ——日米経済の広く知られた90年代像の実態を初めて本格的に再検討、主要産業における日米企業関係を実証的に分析し、日米企業競争の真の焦点がどこにあったのかをグローバル競争の光のもとで浮彫りにする。
〔2008〕978-4-8158-0598-2

宮地英敏著

近代日本の陶磁器業

—産業発展と生産組織の複層性—

A5判・404頁・6,600円

近世以来の伝統をもとに多彩な製品群を生み出し、輸出産業化・機械制大工業の成立を経て飛躍的發展を遂げた近代日本の陶磁器業を、瀬戸・東濃・名古屋・京都・有田など主要産地の構造変化を捉えて実証的に描き出した産業史研究の成果。**政治経済学・経済史学会賞受賞**

〔2008〕978-4-8158-0602-6

安元 稔著

製鉄工業都市の誕生

—ヴィクトリア朝における都市社会の勃興と地域工業化—

A5判・458頁・6,000円

19世紀、世界有数の製鉄工業都市として突如出現し、英国の未曾有の繁栄を支えた建設都市ミドルズバラの発展と衰退の軌跡を膨大なセンサス個票から復元、産業集積、都市形成、医療福祉、労働問題における先駆的対応とともに、衰退局面の苦難をも捉え今日的な産業都市の原型を描き出す。

〔2009〕978-4-8158-0607-1

堺 憲一著

新版 あなたが歴史と出会うとき

—経済の視点から—

A5判・316頁・2,400円

なぜ経済の歴史を学ぶのか。これまでとはひと味違う切り口で、経済史の基本をおさえつつ、人類史のはじまりから今日のグローバル化や環境問題までをわかりやすく語るロングセラーの新版。あなたに刻まれた「歴史」を照らし、「生きていく力」になる経済史入門。

〔2009〕978-4-8158-0610-1

清川雪彦著

近代製糸技術とアジア

—技術導入の比較経済史—

A5判・626頁・7,400円

何が技術への適応化を左右するのか。産業革命を経てアジアに「里帰り」した近代製糸技術が、日・中・印で定着してゆく過程を、文献史料や統計データ、現地調査などに基づき総合的に比較分析。市場や企業家精神など技術への適応化を規定する要因を抽出した力作。**日本産業技術史学会賞受賞**

〔2009〕978-4-8158-0611-8

鈴木恒夫／小早川洋一／和田一夫著

企業家ネットワークの形成と展開

—データベースからみた近代日本の地域経済—

菊判・448頁・6,600円

日本の経済発展の担い手とは？日本各地に存在した、企業家の人的繋がりの実体と機能を、当時の役員録より構築したデータベースに基づき析出。ネットワークの構造分析を初めて全国規模で行うとともに、その具体的活動について愛知県を事例に詳察し、研究の基礎を築く画期的成果。

〔2009〕978-4-8158-0613-2

伊藤正直著

戦後日本の対外金融

—360円レート成立と終焉—

A5判・424頁・6,600円

360円レート成立の起源から、ニクソン・ショックによる固定相場制の崩壊まで、戦後復興・高度成長を可能にした対外金融構造を、日米の一次資料を駆使し実証的に解明。戦後日本経済の国際的連関をこれまでにない水準で示し、ブレトン・ウッズ体制の理解にも新たな光を投げかける。

〔2009〕978-4-8158-0615-6

J. ド・フリース／A. ファン・デア・ワウデ著 大西吉之／杉浦未樹訳

最初の近代経済

—オランダ経済の成功・失敗と持続力 1500～1815—

A5判・756頁・13,000円

最初の「近代経済」か、「中世経済」の残り火か？繁栄を極めた近世オランダ経済の歴史の実態を、ニュー・エコノミック・ヒストリやアナル学派など、最新の研究方法を駆使して解明する。経済史研究の到達点を象徴する画期的名著。——川北稔。ジョルジ・ラーンキ賞受賞。

〔2009〕978-4-8158-0616-3

和田一夫著

ものづくりの寓話

—フォードからトヨタへ—

A5判・628頁・6,200円

日本で自動車の大量生産はいかにして成し遂げられたのか。誤解に満ちたフォード・システムの実態を明らかにし、その日本への導入について考察。出来合いのイメージの向こうから、トヨタが構築してきた生産方式の実像が浮かび上がる。**日経・経済図書文化賞、日本産業技術史学会賞受賞**

〔2009〕978-4-8158-0621-7

中西 聡著

海の富豪の資本主義

—北前船と日本の産業化—

A5判・526頁・7,600円

近世を代表する遠隔地取引の担い手・北前船商人の経営展開と日本の産業化を、その活動が頂点を迎えた近代を視野に、一次資料の精査により描く力作。北前船商人たちの活躍を広範に捉えて、現代にまで及ぶ、日本および日本海地域の産業発展にもたらした影響を示す。**日本学士院賞受賞**

〔2009〕978-4-8158-0626-2

韓 載香著

「在日企業」の産業経済史

—その社会的基盤とダイナミズム—

A5判・450頁・6,000円

在日韓国・朝鮮人の、製造業・土木業・パチンコ産業などへの集中と、迅速な産業転換によるダイナミックな発展過程を、差別など既存の説明を乗り越えて解明、世界的視野で移民の経済理論に展望を拓く。**中小企業研究奨励賞、企業家研究フォーラム賞、政治経済学・経済史学会賞受賞**

〔2010〕978-4-8158-0631-6

春日 豊著

帝国日本と財閥商社

—恐慌・戦争下の三井物産—

A5判・796頁・8,500円

広汎なネットワークと取引基盤をもとに、「大東亜共栄圏」の運営を実質的に支えた圧倒的な巨大企業、三井物産の戦時期の経営を初めて総合的に解明、その経済的役割と戦争との関係を正当に位置づけ直すとともに、恐慌からアジア太平洋戦争へといたる日本経済の動態をも浮彫りにした労作。

〔2010〕978-4-8158-0633-0

中兼和津次著

体制移行の政治経済学

—なぜ社会主義国は資本主義に向かって脱走するのか—

A5判・354頁・3,200円

歴史的な大転換、そして多様な資本主義へ。——中国やヴェトナム、ロシアや東欧など諸国の比較にもとづき、社会主義の理念と現実、崩壊の理論的根拠、体制移行の戦略と過程、結果と評価、さらには民営化と腐敗の問題や、今後の行方まで、第一人者が幅広い視角から移行20年を徹底検証。

〔2010〕978-4-8158-0636-1

中村尚史著

地方からの産業革命

—日本における企業勃興の原動力—

A5判・400頁・5,600円

日本史上でも稀有な「地方の時代」はなぜ実現したか。産業革命の原動力となった、地方からの企業勃興のメカニズムを示すとともに、その後の都市の時代への転換の契機をも掴み出す。斬新な視点で近代日本の工業化過程を描き直した、産業革命研究の到達点。

〔2010〕978-4-8158-0645-3

清水耕一著

労働時間の政治経済学

—フランスにおけるワークシェアリングの試み—

A5判・414頁・6,600円

フランスの先進的な労働時間短縮の試みは、失業問題・ワークシェアリング政策と不可分である。週35時間労働制が雇用創出と労使関係に与えた効果について、1980年代から現在までの制度の追跡と、ルノーやトヨタ・フランスなどの実態調査によって分析する。**社会政策学会学術賞受賞**

〔2010〕978-4-8158-0652-1

菅山真次著

「就社」社会の誕生

—ホワイトカラーからブルーカラーへ—

A5判・530頁・7,400円

新卒就職・終身雇用を常識としてきた「就社」社会・日本。製造業大企業労働者のキャリアと雇用関係の変遷をたどり、新規学卒市場の制度化過程を検討することで、その成り立ちを解明する。日本の雇用慣行が終焉を迎えつつあるかにみえる今、必読の書。日経・経済図書文化賞、冲永賞受賞
〔2011〕978-4-8158-0654-5

長岡慎介著

現代イスラーム金融論

A5判・258頁・4,800円

グローバル化するイスラーム金融のダイナミズムを捉えた初の本格的な研究。金融システムや金融手法の今日的展開をふまえ、イスラーム金融の実践を世界観ごと外部から理解可能なロジックで分析、近代資本主義との関係でその現代性を把握するとともに、経済史的な普遍性をも明らかにする。
〔2010〕978-4-8158-0658-3

小堀 聡著

日本のエネルギー革命

—資源小国の近現代—

A5判・432頁・6,800円

戦後日本の高度成長への道を拓いたエネルギー革命の歴史的意義を、戦前から1960年に至る長期的視野で位置づけ直し、熱管理や臨海開発などの経済政策・企業活動を通じて、資源制約に効率的に対応し得た要因を示す。日経・経済図書文化賞、政治経済学・経済史学会賞受賞
〔2010〕978-4-8158-0660-6

城山智子著

大恐慌下の中国

—市場・国家・世界経済—

A5判・358頁・5,800円

未曾有の危機は中国に何をもたらしたのか？看過されてきた大恐慌の中国への影響を初めて体系的に叙述、銀本位制の特質と市場・政府の役割を捉え直し、中華帝国から現代中国への転換を浮き彫りに。近代の中国経済をグローバル・ヒストリーのなかに位置づける力作。大平正芳記念賞受賞
〔2011〕978-4-8158-0662-0

梶谷 懐著

現代中国の財政金融システム

—グローバル化と中央-地方関係の経済学—

A5判・256頁・4,800円

現代中国の経済発展に果たした、積極果敢な楽観主義者としての地方政府の役割を解明、独自の中央-地方関係に基づく財政金融システムが生みだしてきた問題と、それが世界経済に及ぼす影響を描く。グローバル不均衡や人民元改革問題にも新たな光をあてる画期的成果。大平正芳記念賞受賞
〔2011〕978-4-8158-0678-1

橋川武郎著

原子力発電をどうするか

—日本のエネルギー政策の再生に向けて—

四六版・192頁・2,400円

エネルギー産業史研究の第一人者が、長年の蓄積にもとづいて、もっとも現実的で、かつ総合性に富んだ最適解を示す。歴史的難題をこえて、日本のエネルギー政策に新たな展望をひらくために、いま必要な取り組みを信頼できる叙述で明快に論じた、渾身の提言。
〔2011〕978-4-8158-0679-8

山本有造著

「大東亜共栄圏」経済史研究

A5判・306頁・5,500円

日本帝国50年の歴史を通じて形成された植民地経済の構造と特質をふまえ、その最後の姿となった「大東亜共栄圏」の全容を初めて客観的に描き出す。マクロの数量データをもとに、交易や金融の実証的分析から、アジア各地に大きな影響を及ぼした円域経済の実態を捉えた、必読の成果。
〔2011〕978-4-8158-0680-4

田中 彰著

戦後日本の資源ビジネス

—原料調達システムと総合商社の比較経営史—

A5判・338頁・5,700円

資源メジャーの台頭、新興国向け需要の急拡大のもと、日本の原料資源調達とはどのような方向を目指すべきか。総合商社を軸とした資源調達方式を新たな視点で実証しつつ、曲がり角を迎えた日本の資源調達システムの再構築へのヒントを提示。**国際ビジネス研究会賞、日本流通学会賞受賞**

[2012] 978-4-8158-0688-0

高槻泰郎著

近世米市場の形成と展開

—幕府司法と堂島米会所の発展—

A5判・410頁・6,000円

日次データによる大坂米相場の復元により、効率的な価格形成と、その地方への波及を解明、幕府の米切手政策を軸にした資源調達方式を新たな水準で描く。幕府の政策を失敗とのみ位置づけた従来の評価を覆す画期的成果。**日経・経済図書文化賞、政治経済学・経済史学会賞受賞**

[2012] 978-4-8158-0692-7

橘川武郎著

日本石油産業の競争力構築

A5判・350頁・5,700円

産業の創始から今日までの初の本格的通史により、外国系と国内系石油会社の対抗をダイナミックに叙述、日本の石油会社の挑戦が挫折し続けた原因を正確に掴みだすとともに、歴史的文脈と今日の変化を踏まえ、確かな視点でナショナル・フラッグ・オイル・カンパニー創設への途を指し示す。

[2012] 978-4-8158-0695-8

福澤直樹著

ドイツ社会保険史

—社会国家の形成と展開—

A5判・338頁・6,600円

19世紀末、世界最初の導入から東西統一後の今日まで、年金・医療・労災保険において先進的施策を生み出してきたドイツ社会保険の通史を初めて描出。社会保険発祥の国が直面した、制度・市場・国家・社会・財政などの難題を余すところなく捉える。**社会政策学会奨励賞受賞**

[2012] 978-4-8158-0701-6

アーサー・C. ピグー著 八木紀一郎監訳 本郷亮訳

ピグー 富と厚生

菊判・472頁・6,800円

「福祉の経済学」の古典にして、再評価いちじるしいピグー厚生経済学体系の初の邦訳。貧困と失業の存在する現実世界を扱える「実践経済学」たるべく、国民の福利向上の視点から資源配分や分配、景気変動を論じ、それらへの介入政策を検討する。「ケンブリッジ大学教授就任講演」も収録。

[2012] 978-4-8158-0702-3

川上桃子著

圧縮された産業発展

—台湾ノートパソコン企業の成長メカニズム—

A5判・244頁・4,800円

世界シェア90%以上という驚異的な発展。低コストの下請企業としてグローバルな産業内分業に組み込まれた後発の台湾メーカーが、先進国企業との相互作用の中から急激な成長をとげたメカニズムを、粘り強いインタビュー調査と明快な分析枠組みによって解きあかす。**大平正芳記念賞受賞**

[2012] 978-4-8158-0703-0

石井寛治著

帝国主義日本の対外戦略

A5判・336頁・5,600円

日本の経済人はなぜアジア太平洋戦争を阻止できなかったのか——長年の研究にもとづき、近代の植民地帝国の形成から、在華紡路線・満鉄路線の対抗をへて、盧溝橋事件へと至る歴史を丹念に跡づけ、新たな全体像を描く。碩学による日本帝国主義史の決定版。

[2012] 978-4-8158-0707-8

藤瀬浩司著

20世紀資本主義の歴史 I

—出現—

A5判・220頁・3,600円

歴史の転換点から全体像を冷静に捉える。——20世紀資本主義の生成と展開、成熟と終焉を、企業組織・国家システム・世界システムの三つの視角から整理し、その本質と限界を明快に描きだす通史。この巻では、主として19世紀末から第一次世界大戦までの時期、システムの出現を扱う。
〔2012〕978-4-8158-0704-7

久末亮一著

香港 「帝国の時代」のゲートウェイ

A5判・312頁・5,700円

アジア太平洋の百年を集約する——。19世紀半ば以来、中国から東南アジアやアメリカに広がる空間で、ヒト・モノ・カネ・情報の流れを接続・調節する「場」であった香港。華人による金融活動に焦点をあて、一つの経済圏の歴史と、現在にいたる香港の存在理由を明らかにした力作。
〔2012〕978-4-8158-0709-2

中兼和津次著

開発経済学と現代中国

A5判・306頁・3,800円

中国の経済発展は開発経済学で解けるのか——。未曾有の変貌をとげる現代中国を、社会科学の実験場とみなし、開発経済学のさまざまなモデルや仮説を準拠として、その開発経験を検証する。はたして「中国モデル」は存在するのか。第一人者による透徹した現代中国経済論。
〔2012〕978-4-8158-0710-8

粕谷 誠著

ものづくり日本経営史

—江戸時代から現代まで—

A5判・502頁・3,800円

ものづくりの現場の奥深くから見えてくる日本経済発展の真の力とは何か。神話を超えて、歴史的な一貫した視点により、苦闘から隆盛への展開過程を制度やガバナンス、国際環境にも注目して解き明かす。今日の停滞局面への示唆にも富む、新たな標準をなす通史決定版。
〔2012〕978-4-8158-0715-3

中林真幸編

日本経済の長い近代化

—統治と市場、そして組織 1600～1970—

A5判・400頁・5,600円

最先端の経済学の成果にもとづき、日本経済の400年にわたる超長期の近代化過程を新たなヴィジョンで描き出す。米など近世期の財市場、江戸から明治にかけての金融市場、そして明治以降の労働市場へ、時間差をもって継ぎに進化した市場経済化のプロセスを鮮やかに示す必読の著作。
〔2013〕978-4-8158-0725-2

和田一夫著

ものづくりを超えて

—模倣からトヨタの独自性構築へ—

A5判・542頁・5,700円

よく知られた「かんぱん方式」の背後にあるものを徹底的に探ることからはじめ、多様な顧客ニーズへの対応や、遅れた海外展開まで、トヨタの巨大な生産システムを支える、一貫した「情報」への取り組みを明らかにし、企業にとっての独自性とは何かをあらためて問いかけた渾身の力作。
〔2013〕978-4-8158-0742-9

I. ウォーラーステイン著 川北稔訳

近代世界システム I

—農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立—

A5判・484頁・4,800円

今日の世界を覆う「資本主義的世界経済」の出発点となった、16世紀ヨーロッパを中心とする近代世界システムの誕生の軌跡を鮮やかに描き出す。歴史および社会諸科学の記述を大きく塗り替えて、現代の古典となった記念碑的著作の第一巻。ウォーラーステインによる新たな序文を付した新版。
〔2013〕978-4-8158-0743-6

I. ウォーラーステイン著 川北稔訳

近代世界システムⅡ

—重商主義と「ヨーロッパ世界経済」の凝集 1600-1750—

A5判・462頁・4,800円

「世界経済」の収縮局面に勃興するオランダと、その覇権に挑戦する英仏の抗争をダイナミックに描出、一つのシステムとしての「資本主義的世界経済」の全貌を捉え、新しい世界史への扉を開く。現代の古典となった記念碑的著作の第二巻。ウォーラーステインによる新たな序文を付した新版。

[2013] 978-4-8158-0744-3

I. ウォーラーステイン著 川北稔訳

近代世界システムⅢ

—「資本主義的世界経済」の再拡大 1730s-1840s—

A5判・430頁・4,800円

フランス革命・産業革命の神話的理解を排して、大きな反響を巻き起こした記念碑的著作の第三巻。「世界経済」の第二の大拡大期におけるイギリスのヘゲモニーの確立と、ロシア、オスマン帝国、インド、西アフリカの組み込みを描きだす。ウォーラーステインによる新たな序文を付した新版。

[2013] 978-4-8158-0745-0

I. ウォーラーステイン著 川北稔訳

近代世界システムⅣ

—中道自由主義の勝利 1789-1914—

A5判・432頁・4,800円

「長い19世紀」に確立し、現代世界をも決定づける中道自由主義のインパクトと、それに対抗する反システム運動の勃興を詳述、近代世界システムにおける自由主義国家の成立とその広範な影響を初めてとらえ、19世紀史を書き換える。著者のライフワークにして最高傑作、待望の新刊。

[2013] 978-4-8158-0746-7

沢井 実著

マザーマシンの夢

—日本工作機械工業史—

菊判・510頁・8,000円

「機械をつくる機械」の120年——。一国の技術水準を決定する工作機械工業で、現在わが国は世界の主導的立場にある。戦争をくぐり躍進はいかにして実現されたのか。「饕餮と飢餓」の波に翻弄されつつ、後進性からの脱却のために費やされた努力の軌跡を丹念に追跡したライフワーク。

[2013] 978-4-8158-0747-4

岡本隆司編

中国経済史

A5判・354頁・2,700円

現在だけを見ていては中国はわからない。世界経済の中核であり続けたダイナミックな経済、しかし経済学の標準理論では歯が立たない。そのしくみを歴史から解き明かし、中国経済が今日抱える矛盾の由来をも示す。先史時代から改革開放までを一望する、わが国初の画期的通史。

[2013] 978-4-8158-0751-1

柳澤 悠著

現代インド経済

—発展の淵源・軌跡・展望—

A5判・426頁・5,500円

インド経済の歴史的な成長を準備したものは、経済自由化でもIT産業でもない。植民地期の胎動から輸入代替工業化、緑の革命の再評価も視野に、今日の躍動の真の原動力を掴み出す。下層・インフォーマル部門からの成長プロセスの全貌を捉え、その見方を一新する。国際開発研究大来賞受賞

[2014] 978-4-8158-0757-3

金井雄一著

ポンドの譲位

—ユーロダラーの発展とシティの復活—

A5判・336頁・5,500円

ポンドはなす術もなく凋落したのか。ユーロダラーの発展と国際金融市場シティの隆盛も視野に、戦後ポンドの役割を再評価、基軸通貨交代の知られざる意義を描きだす。福祉国家化による国内均衡優先へと舵をきったイギリスの政策転換をも捉えて、一面的な衰退史像を大きく書き換える。

[2014] 978-4-8158-0759-7

伊藤正直／浅井良夫編

戦後 IMF 史

—創生と変容—

A5 判・336 頁・5,800 円

「アメリカの道具」「休眠期」といった否定的通説を斥け、ブレトンウッズ期 IMF における自律的な制度・機構・政策体系の成立と、戦後国際金融秩序に及んだ広範な影響を解明、主要資本主義国の対応もふまえた包括的な記述により、毀誉褒貶を超えた一貫した IMF 像を初めて示す。

〔2014〕978-4-8158-0776-4

西川 輝著

IMF 自由主義政策の形成

—ブレトンウッズから金融グローバル化へ—

A5 判・284 頁・5,800 円

アジア通貨危機やリーマンショックなどの金融危機対応に示された IMF の政策体系の起源とは。グローバル化批判や機能不全との通説を超え、戦後世界経済の為替自由化に果たした役割を再評価、ブレトンウッズ体制の核心に迫る気鋭の成果。**政治経済学・経済史学会賞受賞**

〔2014〕978-4-8158-0780-1

前田裕子著

ビジネス・インフラの明治

—白石直治と土木の世界—

A5 判・416 頁・5,800 円

自力でのインフラ建設が不可避であった時代に、鉄道、港湾などの整備に奮闘し、多くの土木技術者を育てた白石直治。彼を中心とする緊密な人的交流や先進的技術も取り入れた大規模工事の実態を通じ、日本の産業化の基盤形成に民間が果たした役割を浮彫りにする。**土木学会出版文化賞受賞**

〔2014〕978-4-8158-0788-7

成生達彦著

チャネル間競争の経済分析

—流通戦略の理論—

A5 判・392 頁・5,800 円

生産と消費の間にある空間、時間、価値、情報の隔たりを架橋し、経済厚生を高める流通チャネル。価格—数量競争による新たな分析枠組みを提示し、フランチャイズ料制、再販制、テリトリー制、専売店制の理解を一新、高需要期の低価格などの未解明の謎を解く。**日本応用経済学会著作賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0797-9

坂本優一郎著

投資社会の勃興

—財政金融革命の波及とイギリス—

A5 判・496 頁・6,400 円

イギリスで、投資はいかにして中流の人びとや労働者層・女性にまでいきわたったのか。政治・社会・文化・経済の幅広い文脈で生じた革新の全体像を、ヨーロッパ・アメリカへの拡大も視野に捉え、投資社会化がもたらした衝撃と、今日まで続くその構造を見事に浮き彫りにした注目の研究。

〔2015〕978-4-8158-0802-0

伊藤亜聖著

現代中国の産業集積

—「世界の工場」とボトムアップ型経済発展—

A5 判・232 頁・5,400 円

中国経済の急成長をもたらした真の強みとは。各地に叢生した産業集積の役割に着目、「百均のふるさと」義烏などを踏査し、その競争力の源泉を掴み出す。安易な中国経済終焉論を斥け、絶え間なく生まれ変わるダイナミックな姿を捉える。**大平正芳記念賞、日本ベンチャー学会清成忠男賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0823-5

安達祐子著

現代ロシア経済

—資源・国家・企業統治—

A5 判・424 頁・5,400 円

ソ連解体からエリツィンを経てプーチン体制へ、未曾有の経済危機から新興国へと成長したロシア経済を、資源のみならず、独自のガバナンスの重要性に着目して包括的に叙述、移行経済におけるインフォーマルな国家・企業間関係の決定的意味を捉え、ロシア型資本主義の特質に迫る。

〔2016〕978-4-8158-0828-0

角谷快彦著

介護市場の経済学

—ヒューマン・サービス市場とは何か—

A5判・262頁・5,400円

競争市場を通じたヒューマン・サービスの供給はいかにあるべきか。日本の介護市場を事例に国際的視野でその政策モデルを検証、ケア品質の向上と効率性の両立を可能にする社会システムを領域横断的に示して、理想の介護市場モデルを包括的に描き出す。**日本公共政策学会著作賞受賞**

[2016] 978-4-8158-0833-4

加藤弘之著

中国経済学入門

—「曖昧な制度」はいかに機能しているか—

A5判・248頁・4,500円

「論」から「学」へ——。現代中国経済研究からエッセンスをつかみ出し、所有・市場からガバナンスやイノベーション、対外援助、さらには腐敗・格差まで、生動する独自の経済システムを、トータルに、かつ長期的なパースペクティブの中で、明解に説き明かす。**アジア・太平洋賞特別賞受賞**

[2016] 978-4-8158-0834-1

橋川武郎／黒澤隆文／西村成弘編

グローバル経営史

—国境を越える産業ダイナミズム—

A5判・362頁・2,700円

単純な均質化とは異なるグローバル化の実態を12の産業から捉え、競争優位の真の源泉を浮かび上がらせる。産業と地域特性に応じた専門化やクラスター形成がグローバル化下にも進むメカニズムに迫り、東アジア・北米・ヨーロッパなど地域の競争力の決定的重要性を指し示す。

[2016] 978-4-8158-0836-5

小池和男著

「非正規労働」を考える

—戦後労働史の視角から—

四六判・238頁・3,200円

自動車工場や外食チェーン店から米国の保険会社まで、終身雇用崩壊が叫ばれる以前から非正規労働は幅広く存在してきた。合理性があるから存続する、ならばその根拠は何なのか。職場まで下りた貴重な調査資料をもとに、「低賃金・使い捨て」のイメージを超えた実像を描き、改善策を提案。

[2016] 978-4-8158-0838-9

平野 創著

日本の石油化学産業

—勃興・構造不況から再成長へ—

A5判・408頁・5,800円

世界有数の巨大産業の誕生から今日までを、初めて通史として捉えた産業史の決定版。急速な成長と生産過剰のメカニズムを鋭く分析、政府による産業規制の理解を書き換えるとともに、世界的高シェア企業の叢生など、変容する日本の石油化学産業の新たな潮流も描き出す。

[2016] 978-4-8158-0842-6

沢井 実著

日本の技能形成

—製造現場の強さを生み出したもの—

A5判・244頁・5,400円

なぜ日本で戦後に、柔軟に課題に対応できる大量の現業労働者たちが育っていたのか？ 復興から高度成長への歩みを支えた現場の熟練形成の画期を、戦前以来の学校や工場での技能教育にたどり、徒弟制からの転換をもたらした若年労働者教育の決定的役割を鮮やかに描き出す。

[2016] 978-4-8158-0852-5

鍋島直樹著

ポスト・ケインズ派経済学

—マクロ経済学の革新を求めて—

A5判・352頁・5,400円

資本主義経済の不安定性を解明したミンスキーなど、近年あらためて注目を集めるポスト・ケインズ派。その核心をなす貨幣・金融理論の着想源や展開過程を解き明かし、最新の動向を踏まえて学派の全体像に迫るとともに、新自由主義に代わる経済政策を展望する挑戦の書。

[2017] 978-4-8158-0862-4

村井明彦著

グリーンスパンの隠し絵 [上]

—中央銀行制の成熟と限界—

A5判・326頁・3,600円

揺れ動く金融政策。何が正しいのか。前人未到の長期安定を実現したアメリカ中央銀行総裁が中央銀行制を嫌っていたのは何故か。神話の陰に隠れたその思想と行動を初めて経済学的に解明、現代経済学の枠組みを再設定した画期的労作。上巻では、若き日の遍歴から「大平準」までをたどる。

〔2017〕978-4-8158-0869-3

村井明彦著

グリーンスパンの隠し絵 [下]

—中央銀行制の成熟と限界—

A5判・290頁・3,600円

未曾有の長期安定の後、ITバブルとサブプライム・ローン危機により、非難的となったグリーンスパン。その成功と失敗から何を学び取るのか。下巻では、大恐慌の再解釈に踏み込みつつ、予言的な講演から現在までをたどる。現代経済学と中央銀行制を根底から問い直す渾身作の完結編。

〔2017〕978-4-8158-0870-9

沢井 実著

見えない産業

—酸素が支えた日本の工業化—

A5判・342頁・5,800円

ボンベにつめられ、日本中の町工場へと運ばれ続けた見えない商品、酸素——。鉄鋼、化学、電機から農業、バイオ、医療へと用途を広げ、競争力の新たな焦点となった産業ガスの軌跡を、国際関係史も視野に明治の黎明期から今日までたどり、その特徴的な産業の姿をクリアに描き出す。

〔2017〕978-4-8158-0878-5

宝剣久俊著

産業化する中国農業

—食料問題からアグリビジネスへ—

A5判・276頁・5,800円

飢饉の経験を乗り越えて、龐大な人口への食料供給を実現し、製造業など工業の高度成長を支えた農業の姿を、龍頭企業の台頭など、アグリビジネスでも世界的地位を築きつつある中国農業の現状を新たな視座で描き出す。大平正芳記念賞、日本農業経済学会学術受賞

〔2017〕978-4-8158-0886-0

高島正憲著

経済成長の日本史

—古代から近世の超長期 GDP 推計 730-1874—

A5判・348頁・5,400円

奈良時代～近代初頭にいたる列島経済の展開を一望、最貧国水準を抜け出し、一人あたり GDP が着実な上昇に転じていく過程を、多様な文献の活用により、災害・飢饉・環境・都市化なども視野に解明する。はじめて日本の超長期 GDP 推計を実現し、日本史の新たな扉を開く。日経・経済図書文化賞受賞

〔2017〕978-4-8158-0890-7

中西 聡編

経済社会の歴史

—生活からの経済史入門—

A5判・348頁・2,700円

家族、災害、健康、教育や娯楽、さらに森林やエネルギーなど、身近な生活環境を手がかりにして、経済社会の成り立ちをやさしく解説、消費や自然環境などの新たなテーマから、私たちの生活と経済の歴史の深いつながりを実感とともに学べる入門テキスト。

〔2017〕978-4-8158-0893-8

R. C. アレン著 眞嶋史叙／中野忠／安元稔／湯沢威誠

世界史のなかの産業革命

—資源・人的資本・グローバル経済—

A5判・380頁・3,400円

中国やインド、大陸ヨーロッパではなく、イギリスで産業革命が起こり得たのはなぜか？ 食事、健康などの生活水準をもとに、世界的な視野でその起源を捉えなおし、エネルギーなどの自然環境が果たした役割も視野に、産業革命の新たな全体像を示した決定版。

〔2017〕978-4-8158-0894-5

韓 載香著

パチンコ産業史

—周縁経済から巨大市場へ—

A5判・436頁・5,400円

戦前以来の縁日娯楽はなぜ、30兆円産業となりえたのか。看過されてきた周縁経済の躍動を、ホール、メーカー、規制の動向から捉え、「地下経済」論を超えた等身大の姿を浮彫りにする。産業が存続可能となる条件を新たな視点で照射し、日本経済論の盲点に迫った通史。**サントリー学芸賞受賞**

[2018] 978-4-8158-0898-3

多和田眞／柳瀬明彦著

国際貿易

—モデル構築から応用へ—

A5判・356頁・2,700円

国際貿易の経済的仕組みをスタンダードかつ最新の体系にもとづいて丁寧に解説。リカードに端を発し、国際経済の発展にともないアップデートされてきた理論モデルを学び、保護貿易政策や自由貿易協定の影響、環境や公共財の問題まで、世界経済の重要課題を読み解く力を身につける。

[2018] 978-4-8158-0924-9

田中 光著

もう一つの金融システム

—近代日本とマイクロクレジット—

A5判・360頁・6,300円

日本の発展を導いた、大衆資金ネットワークの挑戦とは。現代の郵便貯金や農協に連なる個人少額貯蓄のインフラが地方経済の安定と成長に果たした役割を、資金供給の実例などから解明、日銀中心の銀行システムの影で見過ごされてきた半身に光を当て、経済成長の条件を問い直す意欲作。

[2018] 978-4-8158-0932-4

中島裕喜著

日本の電子部品産業

—国際競争優位を生み出したもの—

A5判・388頁・5,400円

大手家電メーカーの落日やモジュール化の波に直面してなお、圧倒的な国際競争力を獲得できたのはなぜか。戦後復興期の組立ラジオから今日まで、多様な顧客への志向と、部品の汎用性をめぐる戦略の決定的役割を捉え、グローバルサプライヤーへの軌跡を示す。**中小企業研究奨励賞受賞**

[2019] 978-4-8158-0942-3

ジョエル・モキア著 長尾伸一監訳 伊藤庄一訳

知識経済の形成

—産業革命から情報化社会まで—

A5判・410頁・5,400円

経済成長やイノベーションを持續させるものは何か——。「有用な知識」を軸に科学・技術と経済の歴史を架橋することで、ビッグ・クエスチョンに鮮やかな解を提示し、西欧近代の再定位を図ると同時に、現代社会の行く末をも展望する注目の書。待望の邦訳。

[2019] 978-4-8158-0957-7

ティルトンカル・ロイ著 水島司訳

インド経済史

—古代から現代まで—

A5判・340頁・4,200円

古代以来、有数の巨大経済でありながら看過されてきた、独自の発展のダイナミズムとは何か。地理・気候から商品・技術・知識まで、南アジアの固有性と世界経済との接続の効果を縦横に論じた、地域史からのグローバル・ヒストリー。現代の興隆への道筋をも示した初の通史。

[2019] 978-4-8158-0964-5

岩橋 勝著

近世貨幣と経済発展

「三貨制」史観を塗り替える画期的労作——。小額貨幣の流通は、庶民の生活水準の上昇を示す指標である。銭貨や藩札などの需要面に注目し、多様性とダイナミズムを内包する日本各地の実態を分析、東アジアにおける徳川経済の先進性を実証する。**徳川賞、日本学士院賞受賞**

[2019] 978-4-8158-0965-2

A5判・456頁・6,300円

伊藤真利子著

郵政民営化の政治経済学

—小泉改革の歴史的前提—

A5判・358頁・5,400円

戦後日本の発展と軌を一にし、隠れた福祉・再分配機能をはたした郵便貯金が、その巨大化の過程で抱え込んだ問題の核心とは。金融財政史の展開から民営化論の虚実を捉え直し、熱狂と混迷を生み出した小泉改革の歴史的位置を、政治手法やイデオロギーをめぐる議論をこえて初めて描き出す。
〔2019〕978-4-8158-0968-3

アーサー・C. ピグー著 本郷亮訳

ピグー 財政学

A5判・338頁・6,300円

公平原則から説き起こし、課税の原理、各種租税の比較、公債、雇用政策など、財政学の核心を明晰に論じた古典。実際の有用性の観点から今なお評価が高い、ピグー厚生経済学体系の三部作の一つを、重要論文とともに、第一人者が初めて邦訳し、現代に問いかける。
〔2019〕978-4-8158-0969-0

金井雄一／中西聡／福澤直樹編

世界経済の歴史 [第2版]

—グローバル経済史入門—

A5判・400頁・2,700円

世界の経済はどのような軌跡をたどってきたのか。グローバル・ヒストリーなどの最新の成果と経済史研究の蓄積をもとに、欧米・アジアや世界各地の発展プロセスをバランスよく解説、通史編とテーマ編の二部構成で学ぶ好評の経済史入門、大幅改訂による決定版。
〔2020〕978-4-8158-0997-3

粕谷 誠著

戦前日本のユニバーサルバンク

—財閥系銀行と金融市場—

A5判・390頁・6,300円

証券市場が高度に発達した戦前日本において、三井・三菱・住友など財閥系銀行はいかにしてその隔絶した地位を築きえたのか。見過ごされてきた証券・国際業務を軸に、近世来の両替商がユニバーサルバンクへと発展する姿を鮮やかに示し、巨大銀行と金融市場の関係に新たな光を投げかける。
〔2020〕978-4-8158-1004-7

木村雄一著

カルドア 技術革新と分配の経済学

—一般均衡から経験科学へ—

A5判・256頁・5,400円

シュンペーターとケインズの融合や格差問題など、現代的領域の先駆者として理論に革新をもたらす一方、国連職員・開発経済学者・英労働党顧問などのさまざまな顔を通じて社会に深くかわり、現実に即した経済学の必要を訴え続けた稀代のエコノミストの全体像を提示する。
〔2020〕978-4-8158-1006-1

橋川武郎著

災後日本の電力業

—歴史的転換点をこえて—

A5判・244頁・4,500円

東日本大震災と原発事故は、日本電力業のすがたを根底から変えてしまった。福島への補償から電源エネルギー構成の再編、10電力体制の終焉まで、政策と経営戦略の包括的検討により原発事故前後25年の実態を解明、真の課題のありかを特定し、電力業の歴史的再生へむけた道筋を示す。
〔2021〕978-4-8158-1015-3

中兼和津次編

毛沢東時代の経済

—改革開放の源流をさぐる—

A5判・312頁・5,400円

現代中国のブラックボックスを開く——破壊的だったとされる毛沢東時代。ではなぜその後、急速な発展をなしたのか。人民公社、重化学工業優先、三線建設など、当時の制度・政策の効果をはかり、現在への「遺産」を問う。歴史的視野のもと、冷静な経済学的分析をくわえた画期的著作。
〔2021〕978-4-8158-1031-3

堀内義隆著

緑の工業化

—台湾経済の歴史的起源—

A5判・286頁・6,300円

植民地下の台湾は、たんに帝国の食糧供給基地にとどまったのではない。見過ごされてきた工業化の契機を農産品の加工・商品化に見出し、農村からの工業化の経路を実証、戦後台湾経済の原型をとらえた注目の成果。**アジア経済研究所発展途上国研究奨励賞、中小企業研究奨励賞受賞**

〔2021〕978-4-8158-1032-0

沢井 実著

技能形成の戦後史

—工場と学校をむすぶもの—

A5判・258頁・5,400円

高度成長期の高校進学率上昇が日本の職業教育・職業訓練に与えたインパクトとは？ 企業内養成施設、公共職業訓練所、工業高校、各種学校などで起こった劇的な変遷を分析。「役に立つ」「即戦力」を歴史的に問い直し、実践に根ざした教養教育のあり方を考える。

〔2021〕978-4-8158-1038-2

前田廉孝著

塩と帝国

—近代日本の市場・専売・植民地—

A5判・484頁・8,000円

帝国日本の経済と生命を支えた塩の生産・流通・消費の動態をトータルに解明、植民地塩の内地への浸透プロセスを専売や瀬戸内塩業も視野にとらえて、忘れられた塩の経済圏の全体像を示すとともに、戦後へとつながる食料、資源の対外依存構造のルーツを描き出す。**井筒俊彦学術賞受賞**

〔2022〕978-4-8158-1055-9

阿部武司著

日本綿業史

—徳川期から日中開戦まで—

A5判・692頁・7,200円

明治の産業革命をリードし瞬く間に世界市場を制覇した日本綿紡績・織物業の競争力の源泉とは。近代的大紡績企業と、近世から続く農村織物産地や流通を担う問屋・商社の連携による成長過程を初めて解明、戦後も視野に、巨大産業の興隆を圧倒的な密度とスケールで描く。**日本学士院賞受賞**

〔2022〕978-4-8158-1059-7

井上正夫著

東アジア国際通貨と中世日本

—宋銭と為替からみた経済史—

A5判・584頁・8,000円

新たな貨幣・金融史——。宋・遼・金・元・明・日本・朝鮮など、東アジア各地に流通した宋銭は、それぞれの政権の思惑を超え、為替や紙幣を誘発しつつ、経済・社会・政治を動かしていった。考古学的知見を踏まえた丹念な検証により、従来の見方を一新する。**アジア・太平洋賞特別賞受賞**

〔2022〕978-4-8158-1061-0

ロバート・スキデルスキー著 鍋島直樹訳

経済学のどこが問題なのか

A5判・288頁・3,600円

モヤモヤしている人のために——。「科学」の地位を得るために、経済学は様々な数学やモデルを使ってきた。しかし、それらは本当に有効なのか。現実から離れた想定によって視野を狭めているのではないか。スタンダードな経済学の考え方を再検討し、今後に向けての処方箋を提示する。

〔2022〕978-4-8158-1088-7

中屋信彦著

中国国有企業の政治経済学

—改革と持続—

A5判・366頁・6,300円

グローバル企業ランキングを席捲して存在感を示し続ける国有企業。市場経済への適応と共産党支配を両立すべく実施した改革の成果を、腐敗などの副作用もふくめ解明、中国経済のゆくえを左右するその決定的役割を描く。**アジア・太平洋賞特別賞、日本比較経営学会学術賞受賞**

〔2022〕978-4-8158-1095-5

藤田菜々子著

社会をつくった経済学者たち

—スウェーデン・モデルの構想から展開へ—

A5判・438頁・6,300円

福祉先進国の礎を築いた経済学者たち。ケンブリッジ学派と双璧をなしたスウェーデン経済学の全体像を、政治・世論との深いかわりとともに解明、福祉国家への合意を導いた決定的役割と、現代におけるその変容までを描く。**名古屋大学水田賞、進化経済学会賞、経済学史学会賞受賞**

〔2022〕978-4-8158-1097-9

沢井 実著

輸出立国の時代

—日本の軽機械工業とアメリカ市場—

A5判・296頁・5,800円

戦後日本の復興を支え、高度成長を生み出した対米輸出への道は、いかにして切り拓かれていったのか。自動車・家電に先駆けてアメリカを席捲したカメラ、ミシンなど軽機械の動向を初めて包括的に解明、労働集約型産業の変貌を現場からとらえて、今日に及ぶ発展を鮮やかに描く。

〔2022〕978-4-8158-1099-3

森 宜人著

失業を埋めもどす

—ドイツ社会都市・社会国家の模索—

A5判・396頁・6,800円

失業はいかにして発見されたのか。繰り返し大量失業に悩まされたドイツにおいて、都市が国家に先駆けてセーフティネット構築をはかる姿を解明、慈善団体や国家との対抗／連携の過程も鮮やかに捉え、労働をめぐるモダニティの大転換を、現代も視野に描き出す。**日本ドイツ学会奨励賞受賞**

〔2022〕978-4-8158-1103-7

松本俊郎編

「満洲国」以後

—中国工業化の源流を考える—

A5判・364頁・5,800円

戦後の混乱と破壊を乗り越え、社会主義化の最前線かつ最大の生産拠点へと成長した中国東北。鞍山や瀋陽といった巨大都市の内外で、帝国支配の「遺産」が時代をこえて幾重にも再編されるプロセスを初めて実証。改革開放後の変容も視野に、歴史を貫く流れを比類なき密度で描く。

〔2023〕978-4-8158-1114-3

中西 聡編

日本経済の歴史 [第2版]

—列島経済史入門—

A5判・416頁・2,700円

日本列島でくりひろげられた経済社会の営みを、環境史や生活史などの新たな視点も交えて活写、世界経済との連関もふまえ、国家の枠をこえた多様な経済の展開過程が、いかにして現代社会へとつながるのかをわかりやすく解説した、好評のスタンダード・テキスト決定版。

〔2023〕978-4-8158-1124-2

金井雄一著

中央銀行はお金を創造できるか

—信用システムの貨幣史—

A5判・234頁・5,400円

社会に深く浸透している経済学の「常識」が、いかに貨幣の実態を捉えそこね、不合理な判断や施策を生み出してきたか、イギリス金融史の精緻な分析をもとに実証。近代的貨幣の生成プロセスを「信用」の次元から描き直すことで、MMTにもつながる素朴な認識を覆し、政策の指針を示す。

〔2023〕978-4-8158-1125-9

齊藤 誠著

財政規律とマクロ経済

—規律の棚上げと遵守の対立をこえて—

A5判・468頁・4,500円

日本経済の進む隘路を照らす——。現状をどう考えればよいか、この先どうなるか。過去30年間に陥った不可思議な均衡とその行方を初めて包括的に解明。戦中・敗戦直後の経験も踏まえた透徹した分析から、危機対応の方針を含め政府・日銀のすべきこと／すべきでないことを明確に提示。

〔2023〕978-4-8158-1136-5

谷本雅之著

在来的発展と大都市

—20世紀日本における中小経営の展開—

A5判・424頁・6,300円

最も「近代的」な大都市において、なぜ中小自営業の拡大がみられたのか？ 東京に広がる玩具生産・流通のダイナミズムを読み解き、大工場と雇用労働のセットに収斂しない発展の論理を解明、近世から戦後に連なる日本経済の構造的特質に光をあてる。**中小企業研究奨励賞特賞受賞**

〔2024〕978-4-8158-1149-5

邊 英治著

銀行監督の歴史

—日本の銀行業とブルーデンス—

A5判・408頁・6,300円

わが国における金融業の近代化と発展を支えた、見えざる原動力とは？ 明治の草創期から戦後復興期までの史料を丹念にたどり、大蔵省検査が果たしてきた重要な役割とその変遷を、初めて明らかにした力作。今後の金融危機勃発を回避するためにも、示唆に富む。

〔2024〕978-4-8158-1155-6

B. ファン・バヴェル著

友部謙一／加藤博／大月康弘／田口英明訳

市場経済の世界史

—見えざる手をこえて—

A5判・380頁・5,400円

ユーラシアにおける市場経済の展開を、中世に遡る超長期的スケールと、異なる地域・時代を包摂する統一的視座で捉え、成長から自壊に至るメカニズムを、気候変動や感染症ではなく市場内部の性質から解明。歴史を理解する枠組みを大胆に刷新し、近代と経済をめぐる数々の通説に挑む。

〔2024〕978-4-8158-1159-4

ティルトンカル・ロイ著 小林和夫訳

モンスーン経済

—水と気候からみたインド史—

四六判・240頁・3,600円

水への安定したアクセスなしに、熱帯アジアの持続的な経済発展はありえなかった——。飢饉やコレラとの闘い、井戸をめぐるカースト間の対立、失業と停滞を生む乾季への対処など、成長のボトルネックとなった過酷な環境との交渉に焦点をあて、西洋とは異なる新たな発展モデルを提示する。

〔2025〕978-4-8158-1176-1

九川知雄著

中国の産業政策

—主導権獲得への模索—

A5判・400頁・5,400円

米中対立の一大焦点と化した中国の産業政策。国際競争力や技術力に与えた真の効果めぐり、中央・地方の開発戦略や企業データを徹底分析、鉄鋼から半導体・EVまで重要産業を網羅し、誤解にもとづく脅威論を退けてその全貌と限界を描く。日本への示唆にも富んだ、第一人者による決定版。

〔2025〕978-4-8158-1187-7

中西 聡著

山の富豪の資本主義

—「資源国」日本の近代—

A5判・696頁・9,000円

山がもたらす豊富な材料やエネルギーは、近代日本の産業化をいかに支えたのか。建築業・工業への貢献から水力発電・ガスなどのインフラ開発、銀行・投資事業まで、近世以来の林業・鉱業資産家が果たした役割を徹底的かつ精緻に解明。「資源小国」とは異なる日本経済の姿に迫る。

〔2025〕978-4-8158-1193-8

沢井 実著

戦後日本の形成と東アジア

—「入亜」の経済・経営史—

A5判・496頁・7,800円

民需への転換の手前で模索を続けた軍需産業の戦後史的意義を初めて本格的に跡づけるとともに、技術協力からバナナ貿易まで、アジアとの経済関係の再構築過程を包括的に実証。戦前以来の人脈・企業や賠償問題もふまえ、見過ごされてきた選択と挫折の歴史に新たな光を当てる、渾身の成果。

〔2025〕978-4-8158-1197-6

金井郁／申琪榮著

「生保レディ」の現代史

—保険大国の形成とジェンダー—

A5判・352頁・5,400円

9割に迫る驚異的な加入率を実現し、高度成長の基盤となった日本の生命保険産業。その発展を最前線で支えた女性営業職に着目し、大量採用・大量離職から成果給までその労働の実像を初めて解明。外資系男性営業職もとらえたジェンダー分析により、保険大国への歩みに新たな光を当てる。

[2025] 978-4-8158-1214-0

小西杏奈著

租税のヨーロッパ統合史

—付加価値税の創設から世界的普及へ—

A5判・346頁・6,300円

いまや不可欠な安定財源として多くの国が採用している付加価値税。そのフランスでの発明からEECでの導入義務化に至るプロセスを初めて解明、世界的な展開の第一歩を描くとともに、欧州の財政統合や独自財源の試みが直面した困難の核心を捉え、ユーロ導入の陰に隠された論点に挑む。

[2026] 978-4-8158-1221-8
